

- 護貞, 東方学会, 1971年8月
- 30017 学位論文と戯曲研究「東京支那学報」第9号「塩谷節山先生を偲ぶ」(追悼文集) p.24~26, 東京支那学会, 昭和38年6月1日
- 30018 鈴木虎雄——漢詩一万首を作った『越後が生んだ日本の人物 第三集』A5. p.19~37, 新潟日報社, 昭和42年3月10日
- 30019 おもいだすこと「天上人間」岡崎俊夫文集(河出書房新社製作) p.300~301, 1961年8月
- 30020 桑原隲藏先生『桑原隲藏全集』第1巻「月報」1, p.4~6, 東京, 岩波書店, 昭和43年2月
- 30021 延英舎のこと『吉川幸次郎全集』第3巻「月報」, p.1~2, 東京, 筑摩書房, 昭和44年9月
- 30022 青木さんのおもいで『青木正児全集』第6巻「月報」1, p.1~3, 東京, 春秋社, 1969年11月
- 30023 「風鈴」に寄せて『回想の芦田恵之助』実践社編, p.12~14, 西宮, 実践社, 1957年7月
- 30024 魯迅のことばを「小黑板」第17号, p.1~2, 1960年6月(『中国へかける橋』p.311に収録)
- 30025 魯迅を思いかける「大安」Vol.12 No.10. (第131号) 1966年10月号, (魯迅逝去30周年記念特集) p.4~6, 株式会社大安, 昭和41年10月1日
- 30026 魯迅先生のこと「日中学院」第3号, p.12~14, 昭和43年6月29日
- 30027 呉敬恒先生(『とろろ火』p.39に収録)
- 30028 老舍さん(『とろろ火』p.41に収録)
- 30029 歐陽予倩先生のおもかげ「話劇」(倉石中国語講習会話劇研究会誌)創刊号, 1963年6月(『中国へかける橋』p.396に収録)
- 30030 中国作家の年令(『とろろ火』(くろしお出版) p.45に収録)
- 30031 落しもの拾いもの「小黑板」第7号, 1957年8月, p.2~3, 「忘れえぬ人——その一」に当たる(『中国へかける橋』p.389に収録)
- 30032 忘れえぬ人——その二「小黑板」第9号 p.1~3, 1958年4月(『中国へかける橋』p.392に収録)
- 30033 燕京大学の落成式「文芸春秋」第20巻第1号, 昭和17年新年号, p.8~9, 東京, 文芸春秋社, 昭和17年1月
- 30034 郭沫若氏に答える「人民文学」第2巻第11号, 1951年12月号, p.51, 東京, 人民文学社, 1951年12月
- 30035 天文台で口述試問『私の卒業論文』東京大学学生新聞会編, p.100~103, 東京, 同文館, 1956年12月(『とろろ火』(くろしお出版) p.20, に「わたくしの卒業論文」として収録)もと「東京大学新聞」179号, 1954年1月11日, 3p.
- 30036 翼の一夜「青淵」第103号, 昭和32年10月号, p.2~3, 東京, 浪沢青淵記念財団竜門社, 昭和32年10月, (『とろろ火』p.28に収録)
- 30037 南波山のユキ(ふるさとの思い出一少年のころ)『少年少女文学風土記ふるさとを訪ねて』[8]新鴻小川未明編, p.210~211, 東京, 泰光堂, 昭和35年4月
- 30038 甲詞(1955年1月19日付)宅見晴海記念会遺稿集編集委員会編, 『不毛のものに挑みて』p.1~2, 1955年12月16日
- 30039 甲辞「をみなへし」第15号(創立60周年記念号) p.182~183, 新鴻女子工芸高等学校, 昭和36年2月

- 昭和46年9月
- 30049 [対訳] わが道(4) 中国語翻訳教室訳, 「中国語」1971年10月号, 第141号, p.34~36, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年10月
- 30050 [対訳] わが道(5) 中国語翻訳教室訳, 「中国語」1971年11月号, 第142号, p.11~13, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年11月
- 30051 中国語ひとすじの道「言語生活」No.246, p.88~95, 昭和47年(1971)3月1日, 「人とことば」14欄(1971)12月21日インタビュー
- 30052 不戦への決意を——日中友好によせて「日中新報」1974年9月21日

論著目録補遺

- 漢字改革はどうすすんでいるか『新中国の基礎知識——百の疑問に事実でこたえる——』p.179~182, ハト書房, 1952年6月
- 紅樓夢展をむかえて「紅樓夢展図録」p.2~3, 日中文化交流協会・朝日新聞社, 1964年11月
- 中国の言語文字問題『世界の文化地理, 第1巻』中国・朝鮮・モンゴル, p.263~265, 1966年7月, 講談社
- 中国——ことばの旅『世界の旅2』——中国・朝鮮——p.97~100, 1969年9月, 河出書房新社

- 30040 すれちがい『三木清全集, 第2巻』月報, p.1~3, 東京, 岩波書店, 1966年11月
- 30041 郭沫若『中国古代の思想家たち』上・下 野原四郎・佐藤武敏・上原淳道訳, 岩波書店, 上巻, 1953年8月10日, 下巻, 1957年7月15日, 上下巻とも訳稿を校閲。平野義太郎, 序にて言及。
- 30042 推薦のことば; 新中国そのものの縮刷版「東京大学教養学部工藤篁監修『新華半月刊全訳日本語版』パンフ」北辰, 1959年3月
- 30043 一冊の本, 陶晶孫著「日本への道書」「朝日新聞」昭和37年(1962)11月4日(『一冊の本』朝日新聞本社学芸部編東京, 雪華社, 昭和38年5月, p.211~212に収録)
- 30044 すぐれた教師のすんだ教室「出版ダイジェスト」第440号, p.3, 梓会出版ダイジェスト社, 昭和38年(1963)5月1日(水)「白水社シートブックスをすすめる」欄
- 30045 “到民間去”——伊藤武雄氏の『黄龍と東風』(国際日本協会, 昭和39年7月1日刊)にちなみて「アジア経済旬報」1965年5月上旬号, 610号, p.1~3, 東京, 中国研究所, 1965年5月
- 30046 [対訳] わが道(1) 中国語翻訳教室訳, 「中国語」1971年7月号, 第138号, p.34~36, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年7月
- 30047 [対訳] わが道(2) 中国語翻訳教室訳, 「中国語」1971年8月号, 第139号, p.34~36, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年8月
- 30048 [対訳] わが道(3) 中国語翻訳教室訳, 「中国語」1971年9月号, 第140号, p.33~35, 東京, 中国語友の会(大修館),

らと)

- 29062 ことばのかげはし「小黒板」第16号1960年4月, p.1~2 (『中国へかける橋』p.308に収録)
- 29063 奴隸精神とたたかいに勇氣と忍耐をもつて——6.4 全学抗議集会へのメッセージ「新安保条約反対 声なき声の叫び」6月4日全学抗議集会の記録(小冊子)1960年6月4日, p.6~8 (『中国へかける橋』p.313に収録)
- 29064 苟日新, 日々新, 又日新「小黒板」第18号, p.2~4, 1960年10月
- 29065 中国のお正月「ゆうでい」第6号, 1961年, p.12~13, 東京, 日産ディーゼル販売株式会社, 昭和36年1月
- 29066 わが読書「世界教養全集」月報5, 1961年3月
- 29067 ことばの戸籍「中国語」Vol. IV 第31号, 1962年5月号, p.2, 北辰, 昭和37年(1962)4月20日, →12022 (辞典)にも
- 29068 はえばたて「星火」第9号, p.1, 1962年6月(巻頭言)(『中国へかける橋』p.322に収録)
- 29069 去る者追うべし—同学会創立によせて「とんしゅえ」(倉石中国語講習会同学会報)第1号, p.4, 1963年4月29日(『中国へかける橋』p.323に収録)
- 29070 欢迎两位远来的代表「小黒板」第25号, 1963年11月27日(後記)(中国外文出版社代表団の講習会来訪に当たっての歓迎の挨拶)中文と日文, 1963年7月22日, A5, p.5~6, (△23)
- 29071 一燕落チテ「文芸春秋」昭和38年12月号, p.59~60, 東京, 文芸春秋新社, 昭和38年12月
- 29072 永遠前進「小黒板」第26号(巻頭言), p.2~5, 昭和39年6月28日

6月

- 29073 回想ということ「同学们」(倉石中国語講習会第47期クラス誌)B5p.1, 1965年3月7日(『中国へかける橋』p.400に収録)
- 29074 大衆の心を「日中学院」第2号, p.17~19, 昭和42年6月20日(『中国へかける橋』p.409に収録)→18031
- 29075 荒波をこえる「日中学院」第3号, p.1, 昭和43年6月29日(『中国へかける橋』p.367に収録)
- 29076 春におもう「中国語」第111号, 1969年4月号, p.1, 今月のことば, 東京, 中国語友の会, 昭和44年4月
- 29077 気のながい話「星期三」(日中学院本科自治会誌)1969年7月, B5, p.1(『中国へかける橋』p.412に収録)
- 29078 板橋雑話(1)「日中学院報」第97号, B5, p.5, 1970年12月8日(『中国へかける橋』p.414に収録)
- 29079 板橋雑話(2)「日中学院報」第96号, p.7, 1970年12月15日(『中国へかける橋』p.416に収録)
- 29080 板橋雑話(3)「日中学院報」第95号, p.3, 1971年2月1日(『中国へかける橋』p.418に収録)
- 29081 板橋雑話(4)「日中学院報」第93号, p.3, 1971年3月13日(『中国へかける橋』p.421に収録)
- 29082 板橋雑話(5)「日中学院報」第91号, p.5~6, 1971年4月28日(『中国へかける橋』p.423に収録)
- 29083 板橋雑話(6)「日中学院報」第89号, p.3~4, 1971年6月7日(『中国へかける橋』p.425に収録)
- 29084 板橋雑話(7)「日中学院報」第72号, p.2~3, 1972年8月24日(『中国へかける橋』p.428に収録)
- 29085 板橋雑話(8)「日中学院報」第71号, p.7~8, 1972年9月16日(『中国へかける橋』p.430に収録)
- 29086 板橋雑話(9)「日中学院報」第65号, p.1~2, 1973年6月20日, 1973年5月28日口述(『中国へかける橋』p.432に収録)
- 29087 水の流れと力「月刊エコーミスト」第3巻第10号, 通巻31号, 昭和47年10月号, p.102~108, 毎日新聞社, 昭和47(1972)年10月
- 29088 掃除人のことば「中国語」第171号, 1974年4月号, p.2, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和49年4月
- 30007 創刊のことば「東京支那学報」第1号(表紙見返し)東京支那学会(東京大学文学部中国哲学中国文学研究室)昭和30年6月5日
- 30008 「変革期中国の研究」はしがき『変革期中国の研究』p.1~3, 岩波書店, 昭和30年(1955)4月10日
- 30009 創刊によせて 東大中文学会(仮称)「会報」創刊号, 1955年10月1日(油印)
- 30010 「中国語学」の活字化にあたって「中国語学」49号, A5, p.3, 1956年4月, 中国語学研究会(大阪市大学文学部中国語学研究室)昭和31年4月30日
- 30011 倉石会長挨拶(中国語学研究会第7回大会)「中国語学」56号, p.3, 1956年11月, 中国語学研究会(大阪市大学文学部中国語学研究室内)
- 30012 百号記念のことば「中国語学」100号, A5, p.0(目次裏)~2, 1960年7月, 中国語学研究会, 昭和35年7月15日
- 30013 「中国語学」百五十号によせて「中国語学」150号, A5, p.1~5, 1965年4.5月, 中国語学研究会(東京大学文学部中国文学研究室内)昭和40年5月15日
- 30014 講義室の服部先生「漢学会雑誌」第7巻第3号,「服部先生追悼録」昭和14年11月5日, p.111(383)~112(384) 服部宇之吉(随軒)
- 30015 シノロジストの典型「東光」5号, 狩野直喜先生永逝記念, 昭和23年4月30日, (京都)弘文堂書房。(狩野直喜(君山)博士)
- 30016 (座談会) 先学を語る——狩野直喜博士「東方学」42, p.130~158, 図版2, 出席者: 宇野哲人, 狩野直禎, 倉石武四郎, 吉川幸次郎, 梅原末治, 細川

30 [雑]

- 30001 ごあいさつ「中国語学」1(排印)p.1, 中国語学研究会(京都帝大文学部中国語学研究室内)昭和22年3月1日, (1月13日記)
- 30002 啓事「中国語学」24(油印)昭和24年2月10日, p.4, 中国語学研究会(東大へ転任のこと, 関東支部例会のこと)
- 30003 日本中国学会はどうしてでてきたか「中国語学研究会(関西)月報」(油印)p.3~4, 中国語学研究会関西支部(大阪外大中国語学研究室)昭和25年2月, (会員の質問に答えて)
- 30004 はしがき「中国語学研究会論集」第1号, p.特1~2, 中国語学研究会(天理大学国文学科研究室)昭和28年9月20日
- 30005 年頭のことば「中国語」(油印)1月号(第37本)p.1, 中国語友の会, 1955年1月
- 30006 発刊のことば「中国語」6月号(創刊号)p.1, 邦光書房, 昭和30年(1955)

- 第7号, No.116, 1960年7月号, p.47~51, 国土社, 昭和35年7月
- 29015 うまれかわったあたらしい中国「六年の学習」, 昭和36年12月号, p.55~60, 学習研究社, 昭和36年12月
- 29016 文化交流の便所として一日も早い再建を「大安」Vol. 8, No.5, p.40, 大安, 昭和37年(1962)6月1日
- 29017 中国をささえるもの「中国文化研究」(中国文化研究協会会報) 第7号, p.2~10, 中国文化研究協会, 1965年6月
- 29018 多彩な中国の民族「世界文化シリーズ」18, 中国」p.123, 東京, 世界文化社, 昭和40年10月
- 29019 中国とともに「青年の文化」第469号(月刊), p.2~34, 東京, (財)社会教育協会, 昭和41年2月
- 29020 とろ火 (29052『とろ火』倉石武四郎随想集(くろしお出版1960年発行)p.9~10, に収録)
- 29021 ドギョモン天皇 (『とろ火』(くろしお出版)p.13~15, に収録)
- 29022 わたくしの専門 (『とろ火』(くろしお出版)p.19に収録)
- 29023 山西の旅 (『とろ火』(くろしお出版)p.24~27に収録)
- 29024 英雄樹「群像」第12巻第8号, 昭和32年8月号, p.180~191, 東京, 大日本雄弁会講談社, 昭和32年8月1日 (『とろ火』(くろしお出版)p.35~38に収録)
- 29025 北京の秋「ドレスメーカー」昭和32年10月号, 第79号, p.196, 東京, 鎌倉書房, 昭和32年10月 (『とろ火』(くろしお出版)p.31~34に「ベキンの秋」として収録)
- 29026 ジャンス「月刊人間ドック」第7巻第2号, 昭和34年2月号, p.2~3, 東京, 保健同人社, 昭和34年2月 (『とろ

- 火』(くろしお出版)p.11~12, に収録)
- 29027 恭賀新禧「朝日新聞」1959年1月8日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.49, に収録)
- 29028 成人の日「朝日新聞」1959年1月15日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.50に収録)
- 29029 責任「朝日新聞」1959年1月22日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.51に収録)
- 29030 家族制度「朝日新聞」1959年1月29日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.52に収録)
- 29031 郷愁「朝日新聞」1959年2月5日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.53に収録)
- 29032 校正「朝日新聞」1959年2月12日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.54に収録)
- 29033 留学生のこと「朝日新聞」1959年2月19日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.53に収録)
- 29034 タテとヨコ「朝日新聞」1959年2月26日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.56に収録)
- 29035 当番法「朝日新聞」1959年3月5日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.57に収録)
- 29036 善政「朝日新聞」1959年3月12日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.58に収録)
- 29037 科学「朝日新聞」1959年3月19日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.59に収録)
- 29038 通訳のこと「朝日新聞」1959年3月26日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.60に収録)
- 29039 万愚節「朝日新聞」1959年4月2日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.61に収録)
- 29040 劉連仁「朝日新聞」1959年4月9日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.62に収録)
- 29041 新著「朝日新聞」1959年4月11日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.63に収録)
- 29042 日漢辞典「朝日新聞」1959年4月23日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.64に収録)→12019
- 29043 天皇誕生日「朝日新聞」1959年4月30日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.65に収録)
- 29044 同業者「朝日新聞」1959年5月7日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.66に収録)
- 29045 アンパンとカンブン「朝日新聞」1959年5月14日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.67に収録)
- 29046 ローマ字論百年記念「朝日新聞」1959年5月21日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.68に収録)
- 29047 うけとり「朝日新聞」1959年5月28日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.69に収録)
- 29048 三里湾「朝日新聞」1959年6月4日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.70に収録)
- 29049 「時の記念日」にちなんで「朝日新聞」1959年6月11日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.71に収録)
- 29050 ベキンのどぶ「朝日新聞」1959年6月18日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.72に収録)
- 29051 希望「朝日新聞」1959年6月25日夕刊, きょうきょう欄。(『とろ火』(くろしお出版)p.73に収録)
- 29052『とろ火』——倉石武四郎随想集 東京, くろしお出版, 昭和35年3月30日 第1版, B6, 220p. [29027~29051]
- 29053 万愚節・通訳のこと「中国語」Vol. IV, 第30号, 1962年4月号, p.30~31, 北辰, 昭和37年(1962)3月20日, 「万愚節」と「通訳のこと」の二篇, 朝日新聞のうきょう欄(昭和34年)にのせたもの。くろしお出版『とろ火』より転載。
- 29054 よろこび「国語通信」第51号, 1962-7.8, p.18~20, 筑摩書房, 昭和37年8月, 『とろ火』より転載。
- 29055 とろ火「中国語」第194号, 1976年3月, p.2, 東京, 中国語友の会(大修館書店) 昭和51年3月。『とろ火』(くろしお出版, 昭和30年)より再録。
- 29056 着実な用意が必要である——東西交流について——日本人の発言「世界」第118号, 昭和30年10月号, p.77~78, 岩波書店, 昭和30年10月
- 29057 五月の空に寄せて「東京大学学生新聞」82.83合併号, 昭和26年5月24日, 五月祭記念特集号, p.1(赤門時評欄)
- 29058 日本という国——必要なものはない「毎日新聞」昭和28年4月9日, p.8(学生欄)
- 29059 北京 BEIJING「中国語」第4号, 10月号, p.35~37, 邦光書房, 昭和30年(1955)10月
- 29060 この子捨てざれば「小黒板」第8号, 1957年12月p.1(巻頭言) (『中国へかける橋』p.389に収録)
- 29061 K中国「講座現代倫理」12, 現代に生きることば, 筑摩書房, 昭和34年2月25日。孔子以下28項目中「孔子」「呉稚暉」など, p.218~245(安藤彦太郎, 今井守三郎, 後藤基巳, 西順蔵, 竹内実

- 27002 漢文教育の問題(一)「斯文」第25編第5号, p.7~19, 斯文会, 昭和18年5月1日。昭和18年3月20日, 斯文会研究部講演, 4月7日改稿
- 27003 漢文教育の問題(二)「斯文」第25編第6号, p.17~27, 斯文会, 昭和18年6月1日
- 27004 戦前教育の典型「思想」1951-4 (No.322) (特集・戦後教育の反省) p.89 (353)~94 (358), 岩波書店, 昭和26年4月5日
- 27005 漢文教育について「世界」第78号, p.158~161, 岩波書店, 昭和27年6月1日
- 27006 漢文教育について「文学」第29巻第3号, 1961-3「漢文教育(その1)」p.221(1)~226(6), 岩波書店, 昭和36年3月10日
- 27007 (書評) 吉川幸次郎著『漢文の話』「言語生活」第139号, p.93~95, 筑摩書房, 昭和38年(1963)4月1日
- 28001 いわゆる「倉石説」について「国語文化」第2巻第12号, 11月号, p.60~62, 育英書院, 昭和17年(1942)11月1日, 「「不惜身命」の提出する国語問題について」欄
- 28002 「満語かな」を作れ「北方圏」3号, 新京・北方圏学会, 昭和19年
- 28003 コクゴとカンジ「国語・国文」第15巻第3.4号, p.15~19, 京都帝国大学国文学会編輯, 弘文堂書房, 昭和21年(1946)6月1日「国語国字問題特輯」
- 28004 国語政策と国語教育——角をためて牛を殺すな「ことばの教育」第19巻第1号, 85号, p.6~8, ローマ字教育会, 昭和32年(1957)1月1日, 特集: 国語政策と国語教育
- 28005 日本の国語政策「東京新聞」1958年2月19日20日21日, →25035頁『国語改革論争』1960年4月15日, くらしお出版所収
- 28006 日本の国字はどうなるか「事務と経営」Vol. 10 No.104, p.28~29, 日本事務能率協会, 昭和33年(1958)5月1日
- 28007 言語政策ワドウススメタライカイ「カナモジカイ」10p, 1958年6月17日。1958年4月10日「言語政策を話し合う会」発会式での記念講演
- 28008 国字の表音化と今後の問題「教育静岡」第8巻第7号, p.4~5, 静岡図書株式会社, 昭和33年(1958)7月1日, 「国字問題」
- 28009 (座談会)「言語政策を話し合う会」をめぐって「言語生活」第86号, p.2~14, 筑摩書房, 昭和33年(1958)11月1日。有光次郎, 松坂忠則らと。
- 28010 印刷文化と国語問題「印刷クラブ」創刊号, p.8~11, 朝日出版, 昭和34年(1959)7月15日
- 28011 もじづかい・ひとづかい「郵政」第11巻第9号, 通巻122号, p.18~19, 郵政弘済会, 昭和34年(1959)9月1日, 青いソックによる訂正あり, 原稿ハサミ込み。
- 28012 (座談会) 国語政策と国語問題「声」第6号, p.80~104, 丸善株式会社, 昭和35年(1960)1月1日。土岐善麿, 原富男, 岩淵悦太郎, 白石大二, 廣田栄太郎, 大野晋, 山本健吉, 福田恆存, 亀井勝一郎, 澤野久雄, 中村光夫, 加藤周一らと。

- 28013 言語政策はどうすすめるたらいいか「言語政策」第1号, p.11~16, 言語政策をはなしあう会, 1960年1月29日
- 28014 国語改革のために「総合教育技術」第15巻第7号, p.52~54, 小学館, 昭和35年(1960)8月1日
- 28015 (座談会) 文字とタイポグラフィ——「印刷雑誌」第44巻第3号, p.42~48, 印刷学会出版部, 昭和36年(1961)3月15日。今井直一, ミキイサム, 田中一光, 永井一正, 原弘らと(世界デザイン会議第一部会ゼミナール)
- 28016 (座談会) 新用字用語のこれからの動きと反対論に答えて「自由国民」第131号, p.304~316, 自由国民社, 昭和36年(1961)2月1日。石黒修, 岩淵悦太郎らと。
- 28017 運営は公平——国語審議会とわたくし「読売新聞」昭和36(1961)年4月9日
- 28018 文字とタイポグラフィ, 「Jaac」8.9, 第8.9合併号, p.1~24, 日本宣伝美術会, 1961年7月 世界デザイン会議第一部会ゼミナールレポート
- 28019 いま, いちばん大事なこと「言語生活」第149号, p.52~56, 筑摩書房, 昭和39年(1964)2月1日(国語問題について)のべる)
- 29003 中国随想「天地人」第2号, 1952年涼秋, p.23~24, 東京, 霞山俱樂部, 昭和27年
- 29004 日中文化交流のために——優秀な中国の学者を招こう「朝日新聞」24144号, p.3(論壇), 昭和28年4月29日
- 29005 中国ゆきのこと「東京大学学生新聞」208号, p.2 (赤門時評欄), 昭和29年10月4日
- 29006 北京を夢みて「現代中国」30, p.70~71, 1954年10月(油印)
- 29007 中国から帰って——中国学術文化視察団報告講演会講演要旨 穩歩前進, 不要驕傲, 中国は悪く流れない「東京大学学生新聞」212号, p.3, 昭和29年11月8日
- 29008 中国の大学生生活「東京大学学生新聞」211号, p.2, 昭和29年11月1日
- 29009 中国から帰って「天地人」[アジア総合誌]第4巻第1号, 1955年新春号(通巻12号), p.68~73, 霞山俱樂部, 昭和30年1月1日, 特集・新中国はどう見られたか
- 29010 中国の学生——学術文化視察団員としての見聞「教育評論」第103号, 昭和30年10月号, p.6~9, 東京, 教育の会, 昭和30年10月
- 29011 日本中国学術文献交流センターについて「大安」月報No.12, p.1~2, 大安文化貿易株式会社, 昭和31年(1956)10月1日
- 29012 中国人の見た戦後の日本「中央公論」第72年5号, 1957年4月号, p.166~171, 東京, 中央公論社, 1957年4月
- 29013 中国の「雪どけ」「あゆみ」21号, p.1~5, 東京都立葛飾野高校文芸部, 1959年3月
- 29014 中国からかえって「教育」第10巻

29 [雑感・随想]

- 29001 日本人の中国観「朝日評論」第5巻第58号, 12月号, p.72~74, 東京, 朝日新聞社, 昭和25年12月
- 29002 中国人に学ぶもの「言語生活」創刊号, p.62, 筑摩書房, 昭和26年10月

聞 昭和47年5月18日夕刊

26 国字問題 (漢字)

- 26001 漢字の読み方「文芸春秋」18巻13号, p.3, 昭和15年10月
- 26002 漢字のあとすざり「思潮」第1巻第3号, p.23~29, 昭森社, 昭和21年(1946)8月30日, 特輯・国語改革の諸問題
- 26003 国語は誰のものか——国字問題の紛糾「東京大学学生新聞」第85号, p.2, 昭和26年6月7日
- 26004 『漢字の運命』岩波書店(新書, 青版93)昭和27年(1952)4月10日初版, 200p, 2p (中国国語運動人名索引)。索引に赤鉛筆で訂正あり(2カ所)(1966年12月20日第12刷改版)
- 26005 『漢字の運命』岩波書店(新書, 青版93)1966年12月20日, 第12刷改版, 201p, 2p (索引)
- 26006 ローマ字教育とは国語教育をローマ字ですることだ「ことばの教育」第15巻第3号, p.20(140)~23(143), ローマ字教育会, 昭和28年(1953)3月1日, 特集・私はローマ字教育をこう考える
- 26007 漢字の運命「実業家のための教育科学」創刊号, 第1巻第1号, p.16~22, 二葉株式会社, 昭和28年(1953)4月1日
- 26008 漢字の歴史「言語生活」第19号, p.25~31, 筑摩書房, 昭和28年(1953)4月1日(→25003)25035収
- 26009 漢字教育の問題「信濃教育」第822号, p.66~68, 信濃教育会, 昭和30年(1955)6月1日, 国語教育特集(二)
- 26010 漢字と漢語「言葉の魔術——こと

- ばの研究——」日本放送出版会編, p.45~53, 大日本雄弁会講談社, 昭和30年(1955)9月25日
- 26011 ことばとことばのことば「ことばの講座」第1巻「世界のことばは日本のことば」, 月報「ことば」5, 東京創元社, 昭和31年(1956)5月31日初版
- 26012 ローマ字書き『アンデルセン童話集』の出版をよろこぶ「ローマ字書き—アンデルセン童話集」パンフレット, p.8(180字), ローマ字教育会, 1958年
- 26013 漢字『中学国語二年上』(国語教科書)土岐善磨編, p.127~133, 中教出版株式会社, 昭和33年(1958)6月5日初版
- 26014 漢字をへらすには「ことば」第60号, p.1, 朝日新聞東京本社記事審査部用語課, 昭和33年(1958)6月25日
- 26015 “日中同文”のゆくえ「ことばの教育」第20巻第7号(103号)「論壇」欄, p.13~15(△17), ローマ字教育会, 昭和33年(1958)7月1日
- 26016 「文字」NHK放送台本「生活の知恵」第58回, (油印), 昭和33年(1958)8月19日(火)放送分, 53p, 話, 乾孝氏と共に(書入れ, 訂正あり)
- 26017 漢字の筆順の歴史「ローマ字世界」第509号, p.1, 日本ローマ字会, 1959年4月1日
- 26018 文学のひろば(欄)「文学」第27巻第7号, p.82(862)~83(863), 岩波書店, 昭和34年(1959)7月10日, 国語問題
- 26019 漢字の発達「漢字講座」1「女性書道教養講座」第3巻, p.50~51, 書芸文化院, 昭和34年(1959)8月15日
- 26020 芸術としての漢字「漢字講座」2「女性書道教養講座」第4巻, p.43~45, 書芸文化院, 昭和34年(1959)10月15日

- 26021 略字談義「日本文化研究」月報第7号, p.4~6, 新潮社, 1959年10月
- 26022 これからの国語「新聞研究」No.101, 12月号, p.32~38, 日本新聞協会, 昭和34年(1959)12月1日
- 26023 新送りかな8ヵ月——経過と成りゆきをみる「朝日新聞」昭和35年3月11日, 朝要望「朝日新聞」昭和35年3月11日, 朝刊p.7 昭和34年11月福田恆存と対談(「ラジオ東京」昭和34年11月17日放送)。昭和34年12月亀井勝一郎と対談(「アサヒジャーナル」昭和35年1月17日号)
- 26024 実用としての漢字「漢字講座」3『女性書道教養講座』第5巻, p.45~46, 書芸文化院, 昭和35年(1960)3月25日
- 26025 漢字とカナの問題——漢字をへらすことは日本語の独立「朝日新聞」昭和35年3月16日, 朝刊p.9
- 昭和35年3月28日「朝日新聞」朝刊p.3, 福田恆存: 漢字は必要である——倉石武四郎氏の所説に反対する
- 26026 ふたたび「漢字とカナの問題」——福田恆存氏にこたえて「朝日新聞」昭和35年4月2日, 朝刊p.6
- 昭和35年3月28日「朝日」朝刊p.3, 福田恆存反論。昭和35年4月6日「朝日」朝刊, p.7, 沢田允茂: 手術はあせるな——「言語の整理と思想」について
- 26027 漢字はどうなるか「ことばの教育」第22巻第9号(127号)p.15(359)~24(368)ローマ字教育会, 昭和35年(1960)9月1日, 朝日講堂での講演記録, 特集: 漢字はどうなるか
- 26028 漢字指導に関する問題「実践講座国語教育」1, 第1巻 国語教育の理論と実践, p.160~169, 牧書店, 昭和35年(1960)11月30日
- 26029 漢字の運命「漢字講座」5(正しくは4)『女性書道教養講座』第6巻, p.43~45, 書芸文化院, 昭和35年(1960)12月5日
- 26030 漢字とカナ——大岡提案を読んで「朝日新聞」昭和36年3月14日, 朝刊p.9 大岡昇平「漢字とカナ」昭和36年3月8日「朝日」朝刊p.6, 「漢字とカナ」昭和36年3月9日「朝日」朝刊p.7, 「漢字とカナ」昭和36年3月11日「朝日」朝刊, p.6
- 26031 漢字とカナ——「漢字」の運命について 大処高処の議論を 無用の抵抗はやめよ「朝日新聞」昭和36年4月3日, 朝刊p.9
- 「漢字とカナ」石井勲: 昭和36年3月20日「朝日」朝刊p.3, 岩村清一: 昭和36年3月29日「朝日」朝刊p.7, 大野晋: 昭和36年4月10日「朝日」朝刊p.9, 土岐善磨: 昭和36年4月17日「朝日」朝刊p.9
- 26032 郭沫若氏の『日本の漢字改革と文字の機械化』をよんで「書報」通巻No.64, 第8巻第2号, p.2~4, 極東書店, 昭和40年(1965)4月28日
- 26033 漢字トワタクシ カナモジカイソウリツ45ネンキネンノアツマリ講演カラ「カナノヒカリ」1966年1月号, ダイ523ゴウ, p.11~14, カナモジカイ, 昭和41年1月

27 漢文教育

- 27001 支那語と漢文「図書」第4年第42号, 7月号, p.15~19, 岩波書店, 昭和14年7月1日

- 3月5日、→25035収
 25020 中国の新しい文字、「図書」1956年4月号、(ムーアハウス、ねずまざし訳『文字の歴史』岩波書店、紹介)→25035収
 25021 各国の言語改革にまなぶ a. 中国講座日本語Ⅵ『国語と国字』、p.193~202、大月書店、昭和31年(1956)4月27日→25035収
 25022 漢語拼音方案(草案)をめぐって 関東支部座談会「中国語学」49、1956年4月、p.5~9、出席者：倉石(司会)、牛島、実藤、陣内、六角、原田、村尾、梶、松本、平山、伝田、岩崎、伊藤、中国語学研究会(大阪市立大学文学部中国語学研究室内)昭和31年4月30日
 25023 文化交流と漢字「世界」第125号、p.248~254、岩波書店、昭和31年(1956)5月1日。p.250の撰を併に青インクで訂正あり。(2カ所)→25035収
 25024 注目すべき中国の国語問題 漢字からローマ字への動き「小六教育技術」第9巻第8号、p.47~49、教育技術連盟編集、小学館発行、昭和31年(1956)10月1日→25035収
 25025 中国の文字改革と日本、「大阪市大新聞」1956年10月25日、→25035収
 25026 進む中国の新ローマ字「朝日新聞」昭和32年(1957)1月17日、学芸欄→25035収
 25027 中国の文字改革に学ぶもの——国字と国運の将来によせて「ことば」第3巻第1号、p.2~6、日本話術ロータリー、昭和32年(1957)1月30日→25035収
 25028 中国の文字改革「日中文化交流」第8号、p.1~3、日本中国文化交流協会、1957年4月1日→25035収
 25029 中国の文字の話「世界少年少女文
- 学全集(第二部)」第12巻、東洋編、付録(挿み込み)7、p.1~2、1957年6月25日
 25030 中国国字のローマ字化、「東京新聞」1957年11月12日、→25035収
 25031 中国の新しいローマ字「朝日新聞」昭和32年(1957)12月9日、学芸欄→25035収
 25032 中国の略字と日本の略字 安直すぎる「日中交流」「週刊朝日」通巻1996号、12月29日号、p.15~16、朝日新聞社、昭和32年(1957)12月29日、「社会時評、今日の焦点」欄→25035収
 25033 中国の国字改革と日本、「時事通信」1957年12月、→25035収
 25034 中国の国字改革におもう、「共同通信」1958年2月、→25035収
 25035 『漢字からローマ字へ——中国の文字改革と日本』弘文堂、昭和33年(1958)5月10日初版、208p。(写真3葉)
 25036 文字改革をかたる「霞山倶楽部会誌」第9号(第2巻第5号)p.1~3、霞山倶楽部、昭和33年(1958)5月20日
 25037 文字改革ということ「世界」第151号、p.141、岩波書店、昭和33年(1958)7月1日、「そのときどき」欄
 25038 文字改革をかたる「いづみ」第28号、p.5~7、いづみ会、昭和33年(1958)8月25日。霞山会倶楽部会誌、第2巻第5号(1958.5.20)より転載。
 25039 文字のはなし「小黒板」第11号、1958年9月、p.2~4、1958年8月19日、NHK テレビで放送したもの。(『中国へかける橋』p.247に収録)
 25040 中国の文字なおし(上)『中国古典文学全集19、今古奇観(下)三言二拍抄』月報第7号、B6、p.1~4、平凡社、1958年9月30日

- 25041 中国の文字なおし(中)『中国古典文学全集7、京本通俗小説・雨窓欒枕集・清平山堂話本』月報第9号、B6、p.1~3、平凡社、1958年11月28日
 25042 中国の文字なおし(下)『中国古典文学全集24、紅樓夢(上)』月報第10号、B6、p.1~3、平凡社、1958年12月25日
 25043 文化革命と教育政策 2.2 中国『世界の教育』1(世界の教育政策)p.162~182、共立出版株式会社、昭和33年(1958)12月5日、城戸幡太郎編
 25044 中国の略字「文庫」97、p.2~4、岩波書店(岩波文庫の会)、1959年10月1日
 25045 中国文字改革の現状「読売新聞」昭和35年(1960)5月9日、夕刊、文化欄
 25046 私の見てきた中国の文字改革「小黒板」第17号、1960年5月26日(講演から)
 25047 旅にひろう 中国の文字改革 ラジオ東京TV教養部、1960年6月10日「婦人の窓」第60回放送分、30p。著者の書き入れあり。
 25048 中国の文字改革「星火」第2号、1960年6月27日(『中国へかける橋』p.234に収録)
 25049 中国文字改革視察団に聞く(インタビュー)「言語生活」第106号、p.2~12、筑摩書房、昭和35年(1960)7月1日、土岐善磨氏と共に。
 25050 大躍進の文字改革『中国古典文学全集28、官場現形記(下)老残遊記』月報第26号、p.6~8、平凡社、1960年7月20日
 25051 現地でみた文字改革「アジア経済旬報」439号、1960年8月上旬号、p.1~9(13)中国研究所、昭和35年(1960)8月1日、タイプ印刷
- 25052 中国の文字改革視察訪中学術代表团(1960年)報告 1. はしがき「中国語」Vol. IV、6月号(第32号)p.2~7、北辰、昭和37年(1962)5月20日。前号の「代表团視察報告目録」による。
 25053 中国の文字改革視察訪中学術代表团(1960年)報告 2. 略号のこと「中国語」Vol. IV、7月号(第33号)p.11~20、北辰、昭和37年(1962)6月20日
 25054 中国の文字改革視察訪中学術代表团(1960年)報告 3. 共通語のこと「中国語」Vol. IV、8月号(第34号)p.8~12、北辰、昭和37年(1962)7月20日
 25055 中国の文字改革視察訪中学術代表团(1960年)報告 4. ローマ字のこと「中国語」Vol. IV、9月号(第35号)p.8~16、北辰、昭和37年(1962)8月20日
 25056 中国の文字改革視察訪中学術代表团報告 5. むすび「中国語」Vol. IV、10月号(第36号)p.9~14、北辰、昭和37年(1962)9月20日
 25057 中国の文字改革視察訪中学術代表团(1960年)報告 中国科学院語言研究所をたずねて「中国語」Vol. V、1月号(第39号)p.17~21、北辰、昭和37年(1962)12月20日
 25058 中国ノ漢字・日本ノ漢字「モジコトバ」第246号、p.1~2、カナモジカイ、昭和38年(1963)8月1日。編集部が以下の三冊より抜書きしたもの：『論語』昭和24年6月、日光書院。『漢字の運命』昭和27年4月第1刷、33年4月第9刷、岩波書店。『とろろ火』昭和35年3月、くろしお出版。
 25059 現代中国の文字改革「淡交」増刊号No.15 中国の書、p.164~172、淡交社、昭和39年(1964)11月20日
 25060 中国の文字改革その後「東京新

- 号, p. 28~31, 帝国書院, 昭和25年12月
3日<新文字学習>
- 24003 中国語のレコードとわたくし「書報」11月号, 第1巻第8号, p. 2~7, 極東書店, 昭和33年(1958)11月
- 24004 「座談会」中国語教育の諸問題「東亜時論」第8巻第3号, p. 2~20, 東京, 霞山会, 昭和41年3月, 出席者 鐘ヶ江信光, 矢野春隆
- 24005 日本における中国語教育のあゆみ「収獲」第3号, p. 1~6, 1966年6月20日, (油印)倉石中国語講習会創立十五周年記念特集号, 1966年5月24日記 (『中国へかける橋』p. 220~233に収録)
- 24006 中国語五十年(その1)「中国語」第143号, 1971年12月号, p. 21~24, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和46年12月
- 24007 中国語五十年(その2)「中国語」第144号, 1972年1月号, p. 30~33, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年1月
- 24008 中国語五十年(その3)「中国語」第145号, 1972年2月号, p. 33~36, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年2月
- 24009 中国語五十年(その4)「中国語」第146号, 1972年3月号, p. 30~33, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年3月
- 24010 中国語五十年(その5)「中国語」第147号, 1972年4月号, p. 50~54, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年4月
- 24011 中国語五十年(その6)「中国語」第148号, 1972年5月号, p. 52~55, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年5月
- 24012 中国語五十年(その7)「中国語」第149号, 1972年6月号, p. 45~48, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年6月
- 24013 中国語五十年(その8)「中国語」第150号, 1972年7月号, p. 53~56, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年7月
- 24014 中国語五十年(その9)「中国語」第151号, 1972年8月号, p. 46~49, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年8月
- 24015 中国語五十年(その10)止「中国語」第152号, 1972年9月号, p. 33~36, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和47年9月
- 24016 『中国語五十年』岩波書店(岩波新書846)1973年1月20日, 188p. B40~240 05(24006~24015)
- 24017 中国語とのあい「りいぶる」第3号, p. 18~20, 東京, 大学生協東京支所, 昭和39年6月
- 24018 わが道——中国語学・文学(1) 会読対話——師と過ごした時「朝日新聞」昭和44年2月13日夕刊, p. 8
- 24019 わが道——中国語学・文学(2) 中国語との出会い——最初につまずく「朝日新聞」昭和44年2月14日夕刊, p. 7
- 24020 わが道——中国語学・文学(3) 音読の実践——京大から北京へ「朝日新聞」昭和44年2月17日夕刊, p. 7
- 24021 わが道——中国語学・文学(4) 三十年後めざして——中国の心を追う「朝日新聞」昭和44年2月18日夕刊, p. 7
- 24022 わが道——中国語学・文学(5) 読書の種子——学習の準備整う「朝日新聞」昭和44年2月19日夕刊, p. 7
- 24023 中国語学・文学 倉石武四郎『わ

- 仁井田陸編→25035収
- 25009 中国における国語問題の新しい段階「友の会だより」1954年6月号, No. 12, p. 1~2, 中国語友の会, 1954年6月, 大会記念講演
- 25010 中国語の音標化——「速成識字」から「文字改革」へ——, 1954年7月「毎日新聞」紙, →25035収
- 25011 読書と文字改革——文化人が見た中共の本通り「サンデー毎日」昭和29年11月7日号, 第1, 845号, p. 10~11, 東京, 毎日新聞社, 昭和29年11月→25035収
- 25012 中国の国語国字問題「世界」第109号, p. 189~192, 岩波書店, 昭和30年(1955)1月1日, 中国土産語三題→25035収
- 25013 文字改革の意味するもの——中国が略字の草案を発表した——, 「毎日新聞」1955年3月9日, →25035収
- 25014 中国における言語問題の本質とその発展『変革期中国の研究』, p. 1~29, 岩波書店, 昭和30年(1955)4月10日, 工藤肇と共著。
- 25015 中国の国字問題『美しい国語 正しい国字』河出新書(教養) 31, p. 160~174, 河出書房, 昭和30年(1955)8月10日(『漢字の運命』から)同書p. 155~174
- 25016 中国の国字問題と日本「東京新聞」1955年9月12日13日, →25035収
- 25017 中国の国字国語政策をめぐって(座談会)「言語生活」第48号, 9月号, p. 2~16, 筑摩書房, 昭和30年9月(出席者: 桑原武夫, 中島健蔵)
- 25018 中国の文字改革「日本のコトバ」1955年第2号, 通巻第5号, p. 8~10 (→16)日本コトバの会, 昭和30年9月
- 25019 国字問題への反省——中国のローマ字化によせて——, 「朝日新聞」1956年
- が道」第2巻, 朝日新聞社, 昭和45年5月15日第1刷, p. 31~56(24018~24022)収録
- 24024 中国語学習今と昔——倉石武四郎氏に聞く「毎日新聞」1974年6月5日, 夕刊
- 25001 中国における漢字の問題「新大牛歩」第18号, p. 1, 新潟大学高田分校内牛歩会編集部, 昭和26年(1951)3月1日
- 25002 中国の言語教育『国語教育講座』第5巻「各国の言語教育」p. 85~94, 刀江書院, 昭和26年(1951)
- 25003 漢字の歴史「言語生活」第19号, 4月号, p. 25~31, 筑摩書房, 昭和28年4月(→26008)25035収
- 25004 中国における速成識字法と文字改革の動きについて「中国語学研究会特別例会報告」(関東支部)特別講演(横浜国立大学で)(油印) B5. p. 1~4 昭和年月日[未見]
- 25005 中国の文盲退治「婦人之友」第47巻第7号「生活随想」欄p. 23~25, 婦人之友社, 昭和28年(1953)7月1日 →25035収
- 25006 「速成識字法」というもの「図書」第47号, p. 1, 岩波書店, 昭和28年(1953)8月5日
- 25007 中国における速成識字法とその問題「東洋文化」第13号, p. 1~17, 東京大学東洋文化研究所内東洋学会, 1953年9月30日
- 25008 こたとと文字『中国』p. 203~222, 毎日新聞社, 昭和29年(1954)5月15日,

- 22008 「中級生にむけて」(日中学院別科中級生に対して) 1967年8月1日, 録音状態やや悪し, 録音時間1時間半(5号×1)
- 22009 「日中学院別科について」(日中学院生に対する説明会) 1967年8月22日, 録音状態悪し, 録音時間約40分, ※「小黑板」34号に掲載。
- 22010 「中国の文字」(日中学院神田校舎創設記念) 1968年9月8日, 15日, 22日, 29日, 録音状態よし, 録音時間8時間(5号×4)
- 22011 「中国語のくみため」の改訂について(中国語学研究会例会にて) 1969年7月5日, 録音状態よし, 録音時間1時間半(5号×1)
- 22012 「学ぶこと, 教えること」1970年1月17日, 録音状態よし, 録音時間30分, 「中国語教研究室5,6号」に収録。→23023(22004)
- 22013 「龍鬚溝」(日中学院, 別科授業) 1970年7月13日～9月28日, 録音状態やや悪し, 録音時間18時間(5号×9)
- 22014 「中国語教育二十年の回顧」1970年12月12日, 録音状態よし, 録音時間2時間(7号×1)
- 22015 「中国語教育の展望」1970年12月19日, 録音状態よし, 録音時間2時間(7号×1)
- 22016 (本科6期生) 授業風景(聊斎志異「王者」) 1971年2月, 録音状態普通, 録音時間1時間(5号×1)
- 22017 (本科6期生) 授業風景(「聊斎志異」「王者」) 1971年2月24日, 録音状態普通, 録音時間2時間(7号×1)
- 22018 「中国語について」(日中学院, 別科D班にて) 1972年3月13日, 録音状態よし, 録音時間2時間(5号×1)(前半欠
- 落)
- 22019 「小石川校舎について」(本科生にむけて) 1972年3月14日, 録音状態よし, 録音時間30分(5号×1)
- 22020 「文学革命について」(日中学院本科8期生に対し) 1972年10月30日, 録音状態よし, 録音時間1時間(5号×1)
- 22021 「文学革命について」(本科8期生に対する講話) 1972年11月20日, 録音状態よし, 録音時間1時間半(5号×1)
- 22022 「本科合宿へのメッセージ」1973年7月, 録音状態悪し, 録音時間20分(3号×1)
- 22023 「歌後語について」(本科生に対する講演) 1974年3月11日, 録音状態よし, 録音時間約20分(5号×1) (「中国へかける橋」p.435～439に収録) →10032, 21076
- 22024 「説文解字注」講義 段玉裁『説文解字注』卷一上, 卷一下, 卷二上

23 [中国語教育(一般)]

- 23001 中国語の勉強「朋友」第6号, p.1～2, 中国語友の会準備会, 1952年5月(油印), 中国語友の会準備会機関紙。同会は, 東方学会ビル日本中国友好協会内にあり, 月2回発行となっている。
- 23002 中国語の学び方「朋友」第9号, p.1～2(△10), 中国語友の会準備会, 1952年10月1日(油印)
- 23003 中国語のはなし I. ウェィド式から新表音文字へ「中国語」第22号, p.2～3, 江南書院, 昭和32年(1957)4月
- 23004 中国語のはなし II. 北のことはと南のことは「中国語」第23号, p.2～3,

- 江南書院, 昭和32年(1957)5月
- 23005 中国語のはなし III. 耳で苦勞する(上)「中国語」第24号, p.2～3, 江南書院, 昭和32年(1957)6月
- 23006 中国語のはなし IV. 耳で苦勞する(下)「中国語」第25号, p.2～3, 江南書院, 昭和32年(1957)7月
- 23007 中国語のはなし V. ことばと文字(上)「中国語」第26号, p.2～3, 江南書院, 昭和32年(1957)8月
- 23008 中国語のはなし VI. ことばと文字(下)「中国語」第27号, p.2～3, 江南書院, 昭和32年(1957)9月
- 23009 中国語のはなし VII. 通歌のこと「中国語」第28号, p.2～3, 江南書院, 昭和32年(1957)10月
- 23010 まがりかど「中国語」9月号(創刊)p.1～2, 北辰, 昭和34年(1959)9月, 「専家筆談」の欄。
- 23011 中国語人口論「中国語」Vol. III, 11月号, p.1, 北辰, 昭和36年(1961)10月20日
- 23012 学習のカギ「中国語」Vol. VI, 2月号, (第52号)p.2～7, 北辰, 昭和39年(1964)1月20日
- 23013 学習のカギ(つづき)「中国語」Vol. VI, 3月号(第53号)p.2～7, 北辰, 昭和39年(1964)2月20日
- 23014 月刊「中国語」5周年によせて——中国語の雑誌「中国語」Vol. VI, 9月号(第59号)p.1, 北辰, 昭和39年(1964)8月20日
- 23015 中国語学習の今昔「NHKラジオテキスト 中国語入門」4月号, p.51～52, NHK サービスセンター, 昭和40年(1965)3月
- 23016 学習のための工夫を「小黑板」第28号, 1965年5月(后記)p.1～4 (「中国へかける橋」p.269～273に収録)
- 23017 中国語の入門書「中国語」9, 10月号(第70号)p.16～17, 北辰, 昭和40年(1965)9月20日
- 23018 修正してほしい発音「レジュメ」1966年6月12日, (倉石中国語講習会15周年祭の試演会のあとで) (「中国へかける橋」p.274～276に収録)
- 23019 よくできたとはいえないかなし——発音練習のカリキュラムを「収獲」第4号, p.4, 1966年8月10日, 倉石中国語講習会15周年記念祭の感想。
- 23020 カリキュラムと教科書「収獲」第5号, p.1～4, 1966年11月10日 (「中国へかける橋」p.255～263に収録)
- 23021 「収獲」をかえりみて「収獲」第7号, p.1, 1967年10月15日
- 23022 開室のことば「中国語教研究室」(日中学院講師会誌)第1号, p.1, 1968年3月20日 (「中国へかける橋」p.141に抄録)
- 23023 学ぶことと教えること「中国語教研究室」第5.6合併号, p.1～6, 1970年1月17日 (「中国へかける橋」p.209～220に収録)
- 23024 中国語教育の課題「言語生活」1972年12月号「言語社会時評」欄, 1972年12月→24016「あとがき」所収

24 [中国語教育のあゆみ]

- 24001 高倉克己「高等学校の中国語をうけて」附記「中国語学」3, p.2, (排印), 昭和22年5月1日, 中国語学研究会
- 24002 (特載) 拉丁化による中国語教育の試み「中国語雑誌」第5巻第7号, 12月

- 21034 本科入学式へのメッセージ「日中学院報」第65号別刷p.4, 1973年6月20日。1973年4月10日記
- 21035 講習会館(校舎)の建設について「小黒板」第6号, p.3~4, 1956年11月
- 21036 夢でない新しい校舎「小黒板」第4号, p.2, 1956年11月(『中国へかける橋』p.305に収録)
- 21037 講習会の発展のために「小黒板」第19号, p.28~29, 1961年11月9日(『中国へかける橋』p.318に収録)
- 21038 講習会の将来「小黒板」第22号, p.1, 1963年3月25日
- 21039 年四回の初級募集について「小黒板」第23号, p.1~2, 1963年4~9月
- 21040 日中学院の事業と使命 パンフレット(2460字) 1965年1月
- 21041 辞職届と若干の経過について「小黒板」第3号, p.2~3, 1967年8月28日(『中国へかける橋』p.352に収録)
- 21042 後援会員への手紙 1967年11月付け
- 21043 募金趣意書 昭和43年7月13日(日中学院神田教室創設のための会長名による)(『中国へかける橋』p.143に収録)
- 21044 運営協議会議長杉本達夫殿 1969年2月23日, 書簡(『中国へかける橋』p.149に抄録)
- 21045 本科各講師殿 1971年3月31日, 書簡(『中国へかける橋』p.284~7, 凸版)
- 21046 日中学院とその使命「日中学院報」第92号, p.1~2, 1971年4月9日(『中国へかける橋』p.373に収録)
- 21047 日中学院とその使命 パンフレット(1,365字)
- 21048 いわゆる「善隣」問題について 1971年12月8日, 書簡
- 21049 卒業追試について 1971年3月27日, 書簡
- 21050 本科追試験問題 1971年4月6日(『中国へかける橋』表紙裏に凸版にて抄録)
- 21051 「善隣」その後「日中学院報」第79号, p.1~3, 1972年2月16日
- 21052 「善隣」その後(その二)「日中学院報」第78号, p.1~2, 1972年3月16日(『中国へかける橋』p.180に抄録)
- 21053 学院の運営, 財政問題について「日中学院報」第63号, p.8, 1973年10月7日
- 21054 連絡委員会御中 1974年8月8日, 書簡
- 21055 「善隣」が日中学院を分離する問題について「日中学院報」第57号, p.2~3, 1974年8月19日(『中国へかける橋』p.180に抄録)
- 21056 夏期講習メモ(研究科担当)「小黒板」第21号, p.4, 1962年9月
- 21057 研究授業参考資料「研究授業レジュメ」1962年11月26日(『中国へかける橋』p.276~280に収録)
- 21058 現在の初級(1962年10月から)「小黒板」第22号, p.5, 1963年3月25日, 授業紹介
- 21059 初級コースを担当して「小黒板」第22号, p.17~18, 1963年3月25日, (倉石中国語講習会本科2年制確立のための中間報告)
- 21060 中級で現在やっていること「講師会レジュメ」1963年7月28日(『中国へかける橋』p.281~283に収録)
- 21061 高級D 講読 第58期授業報告「収獲」(倉石中国語講習会講師会誌)第

月1日

- 1号, p.7, 1965年11月10日
- 21062 紅樓夢 第58期授業報告「収獲」第1号, B5, p.9, 1965年11月10日
- 21063 高級D 講読 第59期授業報告「収獲」第2号, p.6, 1966年2月10日
- 21064 高級D 講読 第60期授業報告「収獲」第3号, p.44~45, 1966年6月20日
- 21065 高級D 講読 第61期授業報告「収獲」第4号, p.21, 1966年8月10日
- 21066 研究科 講読(紅樓夢) 第61期授業報告「収獲」第4号, p.22~23, 1966年8月10日
- 21067 高級D 講読(魯迅「故郷」ほか) 第62期授業報告「収獲」第5号, p.13, 1966年11月10日
- 21068 研究科 講読(紅樓夢) 第62期授業報告「収獲」第5号, p.14, 1966年11月10日
- 21069 高級D 講読(毛沢東「紀念白求恩」ほか) 第63期授業報告「収獲」第6号, p.13~14, 1967年2月10日
- 21070 研究科 講読(紅樓夢) 第63期授業報告「収獲」第6号, p.14~15, 1967年2月10日
- 21071 本科2年(老舎「龍鬚溝」)の授業報告「中国語教室」第2号, p.5~6, 1968年6月20日, (日中学院第三期生の最終学期)
- 21072 別科第4期研究科(陳士和講述評書聊齋志異「王者」) 授業報告「中国語教室」第4号, p.9, 1968年12月20日
- 21073 教師のための講座(清・段玉裁説文解字注) 授業報告「中国語教室」第5, 6合併号, p.37~38, 1970年1月17日
- 21074 本科二年第四学期(老舎「龍鬚溝」1954年演出本) 授業報告「中国語教室」第7, 8合併号, p.14~15, 1970年9月1日
- 21075 中国語教師のための講座 第9, 10期授業報告(説文解字段注巻一下卅部次まで)「中国語教室」第7, 8合併号, p.21, 1970年9月1日
- 21076 『中国へかける橋』日中学院・倉石武四郎先生遺稿集編集委員会編(江尻健二・加納陸人・竹中憲太郎) 亜紀書房, 1977年4月10日, 四六判, 490p.

22 [テープ]

- 22001 NHKラジオ中国語入門講座 年月~年月放送, 録音状態よし, 録音時間9時間(オープン5号×9)
- 22002 「中国のローマ字表記教育」「漢字の将来」1960年4月, 録音状態よし, 録音時間12分(3号×1)11分(頭の部分欠落)
- 22003 「中国文化の見方について」1964年8月27日, 録音状態よし, 録音時間約40分(5号×1)
- 22004 学ぶこと教えること「NHK・人生読本」JT-10昭和40年1月27日~29日放送, オープンリールテープ9.5cm/sec side 1 NHK サービスセンター, 1965年8月~22012, 23023
- 22005 「老舎について」(老舎歓迎にあたって) 1965年4月22日, 録音状態よし, 録音時間約40分(5号×1)
- 22006 「倉石中国語講習会高級A生にむけて」1966年4月13日, 録音状態よし, 録音時間約1時間半
- 22007 「講習会のかかえている問題点」1966年5月25日, 録音状態よし, 録音時間40分

dà wù bō)「朝日アジアレビュー」1970年
第1号(創刊号)p.152~153, 朝日新聞社,
昭和45年3月1日(華山のこと、富士山のこと、地(つち)のこと)

20059 中国語のシルエット2. 毫不利己専門利人(háo bú lì jǐ zhuān mén lì rén)「朝日アジアレビュー」1970年
第2号(夏季号)p.144~145, 朝日新聞社,
昭和45年6月1日(公私のこと)

20060 中国語のシルエット3. 愚公移山(Yúgōng yí shān)「朝日アジアレビュー」
1970年第3号(秋季号)p.160~161,
朝日新聞社, 昭和45年9月1日

20061 中国語のシルエット4. 瓢潑瓦灌(piáo pō wǎ guàn)「朝日アジアレビュー」
1970年第4号(冬季号)p.162~163,
朝日新聞社, 昭和45年12月1日(龍巖溝のこと)

20062 中国語のシルエット5. 一盤散沙(yì pán sǎn shā)「朝日アジアレビュー」
1971年第1号(春季号)p.68~69,
朝日新聞社, 昭和46年3月1日(普通話教育)

20063 中国語のシルエット6. 語言文字(lǐ yǔ yán wén zì)「朝日アジアレビュー」
1971年第2号(夏季号)p.184~185, 朝日新聞社, 昭和46年6月1日(中国研究の早道: まずことばから)。「朝日アジアレビュー」通巻第7号, 1971年第3号,
昭和46年9月1日, p.198「デスク・メモ」に、「中国語のシルエット」は筆者が病氣静養中のため休載します。」とある。

20064 中国語のシルエット7. 単音節語——二三(yī èr sān)「朝日アジアレビュー」
通巻第12号, 1972年第4号(冬季号)p.99~100, 朝日新聞社, 昭和47年12月1日(發党顧論, 四声など)

20065 中国語のシルエット8. 中国語と漢

字「朝日アジアレビュー」通巻第13号,
1973年第1号(春季号)p.172~173, 昭和48年朝日新聞社, 3月1日(右文説その他)

21 [倉石講習会・日中学院]

21001 講習会の五周年を迎えて「小黒板」
(倉石中国語講習会学生自治会誌)第2号,
A5. p.1, 1956年4月15日(『倉石武四郎
中国へかける橋』p.303に収録)

21002 コトバのかげはし「小黒板」第7
号, p.1, 第26期開講式会長挨拶より, 19
57.8(『中国へかける橋』p.303に収録)
21003 講習会をささえていこう! 「小黒
板」(特集, 講習会をよりよくするため
に)第12号, p.1~2, 1958年12月(『中
国へかける橋』p.307に収録)

21004 一周年の開講式に「星火」(家庭
婦人のための中国語講座機関誌)第1号,
p.1, 1960年6月4日

21005 わかものたちのそこちから 10周
年祭をふりかえって「小黒板」第19号,
p.3, 1961年6月(『中国へかける橋』
p.317に収録)

21006 ごあいさつ——十周年にあたって
「倉石中国語講習会10周年祭パンフ」1961
年6月6日(『中国へかける橋』p.315
に収録)

21007 三十年と三年「星火」第7号, p.
3, 1961年12月(『中国へかける橋』p.
320に収録)

21008 ごあいさつ「婦人班パンフ」1962
年6月1日

21009 みなさんに希望すること「倉石中
国語講習会第47期初級名簿」1963年4月

6日(『中国へかける橋』口絵写真裏に
収録)

21010 日中学院「岩波中国語辞典出版記
念祭プログラム」1963年10月26日

21011 「日中学院について」と「趣意書」
昭和38年12月10日付け(日中学院設立に
ついて賛同と協力のおねがい)

21012 「日中学院について」と「趣意書」
昭和39年2月改稿(日中学院設立につい
て賛同と協力のおねがい)

21013 「星火」ということ「星火」第16
号(家庭婦人のための中国語講座五周年
記念特集号)p.1, 1964年3月15日(『中
国へかける橋』p.324に収録)

21014 数字の意味するもの——二百二十と
五百「星火」第17号, p.1, 東京, 家庭婦
人のための中国語講座, 1964年6月15日
(『中国へかける橋』p.326に収録)

21015 湧き出る地下水のように「星火」
第19号, p.3~4, 1964年12月15日。家庭
婦人のための中国語講座五周年記念祭
(1964年11月1日, 代々木公会堂)でのあ
いさつ要旨(『中国へかける橋』p.328
に収録)

21016 日中学院のあゆみ 1965年1月12日,
パンフレット

21017 中国文学特別講座のおわりにのぞ
み「星火」第20号, p.1, 1965年3月15
日

21018 三年あまり「星火」第23号, p.5,
東京, 家庭婦人のための中国語講座, 19
65年12月10日

21019 日中学院生にのぞむこと「日中学
院」(日中学院本科学生自治会誌)創刊
号, B5, p.4~5, 昭和41年4月10日(『中
国へかける橋』p.332に収録)

21020 中国語講習会十五年「大安」第12
巻第6号(通巻第127号)p.2~7, 大安,

昭和41年(1966)6月

21021 御挨拶「小黒板」第30号(倉石中
国語講習会創立15周年記念特集号)p.69
~71, 1966年11月12日(『中国へかける
橋』p.345に収録)

21022 中国語講習会15年 倉石中国語講
習会15周年記念祭パンフ(『中国へかけ
る橋』p.334に収録)

21023 十五周年とその後「小黒板」第30
号(倉石中国語講習会創立15周年記念特
集号)p.9~11, 1966年11月12日(『中
国へかける橋』p.349に収録)

21024 十有六年半「小黒板」第31号, p.
2~3, 1967年9月27日(『中国へかける
橋』p.359に収録)

21025 卒業生におくることば「中国語教
研室」第2号, p.1~3, 1968年6月20日
(『中国へかける橋』p.361に収録)

21026 第一回文化祭によって「日中学院
第一回文化祭パンフレット」1968年12月

21027 神田教室にのぞむ「中国語教
研室」第4号, p.1~2, 1968年12月20日
(『中国へかける橋』p.368に収録)

21028 新入生歓迎のあいさつ——本科第
七期入学式にて「中国語教室」第7.8
合併号, p.1~6, 1970年9月1日

21029 日中学院本科の学生諸君に「日中
学院報」第81号, p.1~5, 1971年12月4
日(『中国へかける橋』p.185に抄録)

21030 本科一年Bクラスへの答え 1971
年12月9日, 書簡(『中国へかける橋』
p.377に収録)

21031 E君へ 1971年12月20日, 書簡(『中
国へかける橋』p.62に抄録)

21032 新入学生をむかえて「日中学院報」
第77号, p.1~2, 1972年4月8日

21033 学院祭のごあいさつ 1972年12
月16日, 原稿

- 20011 NHK中国語入門講座ラジオテキスト 第3巻第2号, ラジオサービスセンタ-、昭和30年(1955)3月, 32p, 4.5月号(4月2日~5月29日分)
- 20012 NHK中国語入門講座ラジオテキスト 第3巻第3号, ラジオサ-ビスセンタ-、昭和30年(1955)5月, 32p, 6.7月号(6月3日~7月31日分)
- 20013 NHK中国語入門講座ラジオテキスト 第3巻第4号, ラジオサ-ビスセンタ-、昭和30年(1955)7月, 32p, 8.9月号(8月5日~9月30日分)
- 20014 NHK中国語入門講座ラジオテキスト 第3巻第5号, ラジオサ-ビスセンタ-、昭和30年(1955)9月, 32p, 10.11月号(10月1日~11月27日分)表3の注音字母の歌に、ローマ字(赤ボールペン)の書入れあり。
- 20015 NHK中国語入門講座ラジオテキスト 第3巻第6号, ラジオサ-ビスセンタ-、昭和30年(1955)11月, 32p, 12.1月号(12月2日~1月29日分)
- 20016 NHK中国語入門講座ラジオテキスト 第4巻第1号, ラジオサ-ビスセンタ-、昭和31年(1956)1月, 32p, (2月3日~3月31日分)
- 20017 中国語入門講座(1)「朋友」第19本, p.1~7, 中国語友の会, 1953.6.1(油印)文末に, NHK中国語入門講座4月12日より5月10日までの要約とある。
- 20018 中国語入門講座(2)「朋友」第20本, p.1~5(△12)中国語友の会, 1953.7.1(油印)NHK中国語入門講座5月16日から5月30日分。
- 20019 中国語入門講座(3)「朋友」第21本, p.1~6(△23)中国語友の会, 1953.8.1(油印)
- 20020 中国語入門講座(4)「朋友」第22本, p.1~7, 中国語友の会, 1953.9.1(油印)
- 20021 中国語入門講座(5)「朋友」第23本, p.3~8, 中国語友の会, 1953.10.1(油印)
- 20022 中国語入門講座(6)「朋友」第24本, p.1~5, 中国語友の会, 1953.11.1(油印)テキスト18~19頁の解説。
- 20023 中国語入門講座(7)「朋友」第25本, p.1~10, 中国語友の会, 1953.12.1(油印)
- 20024 中国語入門講座(8)「中国語」新年号, p.1~6(△22)中国語友の会, 1954.1.(油印)
- 20025 中国語入門講座(9)「中国語」二・三合併号, p.1~6, 中国語友の会, 1954.3.(?) (油印)
- 20026 中国語入門講座II(1)「中国語」四月号, p.9~13. 中国語友の会, 1954.4.(油印)
- 20027 中国語入門講座II(2)「中国語」五月号, p.9~13, 中国語友の会, 1954.5.(油印)
- 20028 中国語入門講座II(3)「中国語」六月号, p.9~12, 中国語友の会, 1954.6.(油印)
- 20029 中国語入門講座II(4)「中国語」七月号, p.9~11, (△18)中国語友の会, 1954.7(油印)編集委員:二宮一郎, 岡本哲, 長岡襄
- 20030 中国語入門講座II(5)「中国語」八月号, p.9~12, (△26)中国語友の会, 1954年8月(油印)
- 20031 中国語入門講座II(6)「中国語」九月号(第33本)p.9~12, 中国語友の会, 1954年9月(油印)
- 20032 中国語入門講座II(7)「中国語」十月号(第34本)p.7~10 (△6)中国語友の会, 1954年10月(油印)

- 20033 中国語入門講座II(8)「中国語」十一月号(第35本)p.7~10, 中国語友の会, 1954年11月(油印)
- 20034 中国語入門講座II(9)「中国語」十二月号(第36本)p.8~10(△20)中国語友の会, 1954年12月号(油印)
- 20035 中国語入門講座II(10)「中国語」一月号(第37本)p.5~8(△15)中国語友の会, 1955年1月(油印)
- 20036 中国語入門講座II(11)「中国語」二月号, p.12~15(△6)中国語友の会, 1955年2月(油印)
- 20037 初級講座 六月の教室「中国語」六月号(創刊号)p.2~16, (排印)以下同じ, 邦光書房, 昭和30年(1955)6月
- 20038 初級講座 七月の教室「中国語」七月号(第2号)p.1~11, 邦光書房, 昭和30年(1955)7月
- 20039 初級講座 八月の教室「中国語」八月号(第3号)p.1~9, 邦光書房, 昭和30年(1955)8月
- 20040 初級講座 九月の教室「中国語」九月号(第4号)p.1~8, 邦光書房, 昭和30年(1955)9月
- 20041 初級講座 十月の教室「中国語」十月号(第4号)p.1~7, 邦光書房, 昭和30年(1955)10月
- 20042 初級講座 十一月・十二月の教室「中国語」第6号, p.1~7, 邦光書房, 昭和30年(1955)12月20日
- 20043 初級講座 一月の教室「中国語」第7号, p.1~7, 邦光書房, 昭和31年(1956)1月20日
- 20044 初級講座 二月の教室「中国語」第8号, p.1~7, 邦光書房, 昭和31年(1956)2月20日
- 20045 初級講座 三月の教室「中国語」第9号, p.1~7, 邦光書房, 昭和31年
- (1956)3月20日
- 20046 語法講座(1)「中国語」第10号, p.7~10, 邦光書房, 昭和31年(1956)4月20日
- 20047 語法講座(2)「中国語」第11号, p.6~9, 邦光書房, 昭和31年(1956)5月20日
- 20048 語法講座(3)「中国語」第12号, p.6~9, 邦光書房, 昭和31年(1956)6月20日
- 20049 語法講座(4)「中国語」第13号, p.12~15, 邦光書房, 昭和31年(1956)7月1日
- 20050 語法講座(5)「中国語」第14号, p.6~9, 邦光書房, 昭和31年(1956)8月1日
- 20051 語法講座(6)「中国語」第15号, p.6~9, 邦光書房, 昭和31年(1956)9月1日
- 20052 10月のテキスト 中国語入門講座(1)「中国語」第16号, p.2~9, 邦光書房, 昭和31年(1956)10月1日
- 20053 11月のテキスト 中国語入門講座(2)「中国語」第17号, p.2~9, 邦光書房, 昭和31年(1956)11月1日
- 20054 12月のテキスト 中国語入門講座(3)「中国語」第18号, p.2~9, 江南書院, 昭和31年(1956)12月15日
- 20055 1月のテキスト 中国語入門講座(4)「中国語」第19号, p.2~9, 江南書院, 昭和32年(1957)1月15日
- 20056 2月のテキスト 中国語入門講座(5)「中国語」第20号, p.2~9, 江南書院, 昭和32年(1957)2月
- 20057 3月のテキスト 中国語入門講座(6)「中国語」第21号, p.2~8, 江南書院, 昭和32年(1957)3月
- 20058 中国語のシルエット1. 地大物博(di

呉宗遠, c 女学生曹慶頤, d a の妹田英

英, e a の母謝冰心, f 女学生呉宗黎

19015 「中国語中級教本」上 I ~ X 附補

充単語, 30p. (油印) 附「漢字テキスト」,

倉石中国語講習会専用, 1952年4月

19016 「中国語中級教本」中 XI ~ XX (油

印) 35p. 附「漢字テキスト」, 倉石中国語

講習会専用, 1952年

19017 「中国語中級教本」下 XXI ~ XXX

(油印) 40p. 附「漢字テキスト」, 倉石中

国語講習会専用, 1952年

19018 「BANJE GI GIAO」高玉宝(油印)

19019 『ラテン化新文字による中国語初級

教本』岩波書店, 1953年6月20日(横排)

¥300, B6, 174p. 図版1p, I ~ XX (本

文118p.) 附録1 漢字と注音符号とによる

テキスト, 2 発音のまとめ, 3 綴字のま

とめ, 4 語彙のまとめ, 5 語法のまとめ,

6 常用一千語(索引), 7 音節表→19026,

19027

19020 [新刊紹介] 倉石武四郎「中国語初

級教本」岩波書店「中国語研究会会

報」第16号(油印)無署名, 1953. 7. 中国

語学研究会(天理大中国学科研究室内)

19021 『中国語発音表対照表』中国語

友の会, 1953年8月初版(500部)18p. (油

印)

19022 『1-BA IZ』ローマ字教育会, 1953

年10月, 初版(1000部), 57p, 3p, 黎錦

熙「国語羅馬字国語模範読本」の首冊。

19023 「ラテン化新文字による中国語初級

教本」について「中国語研究会会報」

第20号, 1953年11月, 中国語学研究会,

p. 1~4

19024 『乙己』(魯迅) 播磨書房, 1954

年4月初版, 12p. 注13p (注と解説倉石

武四郎) 中国文化叢書 1 実藤恵秀と共

に監修, 原カードに「ゲラ刷」とある[ゲ

ラは別にあるが書入れなし)

19025 『日華会話練習帳』大学書林, 昭

和32年(1957)7月初版, 110p, 倉石武四

郎関中国語友の会編

19026 「ラテン化新文字による中国語初級

教本」を祭る文「小黑板」第8号, 1957

年12月, p. 2~3. (『倉石武四郎 中国へ

かける橋』p. 267に収録) ←19019

19027 『ローマ字 中国語 初級』岩波

書店, 1958年4月8日第1刷初版, 85p.

19028 「ローマ字中国語初級」1960年5

月15日4刷, (1958年4月8日第1刷)

19029 『実践論』大学書林, 昭和33年

(1958)9月初版, 79p, 大学書林語学文

庫No. 2508, うさみなおき訳注, 倉石武

四郎校閲

19030 新教材「中国語のくみだて」につ

いて「小黑板」第24号, p. 37~38. 1963

年10月6日 (『中国へかける橋』p. 267

に収録)

19031 『中国語のくみだて』北辰, 昭和39

年(1964)1月10日, 白表紙うすねずみ表

紙, 142p. タイプ印刷, 40課, 昭和39年

1月より倉石中国語講習会にて使用。

19032 『中国語のくみだて』北辰, 昭和

39年(1964)1月10日〔修正版〕(著者書

込) A5, 142p, タイプ印刷, 表紙に赤ベ

ンにて〔修正版〕(枠ナジ)とあり, 著

者の校正本, 処処に赤ペンが入っている。

ただし, 原本は初版本。

19033 倉石武四郎編『中国語のくみだて

修正版』昭和40年4月10日修正版(昭和

39年1月10日初版) 北辰(朱墨書き入

れ本)

19034 『中国語のくみだて』北辰, 昭和

40年(1965)4月10日〔修正版〕147p, 著

者の校訂(ペン書入れ)あり, いわゆる

手訂本である。→19041

13日) 分, 夏のラジオクラブ

20002 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト ラジオサービスセンター, 昭和28年

(1953)3月初版, 31p. 表1, (4月12日~

7月11日分)

20003 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト ラジオサービスセンター, 昭和28年

(1953)7月初版, 31p. 表1, (8月9日~

10月25日分)

20004 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト ラジオサービスセンター, 昭和28年

(1953)11月初版, 32p. 表1, (昭和28年

12月12日~昭和29年3月28日分)

20005 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト ラジオサービスセンター, 昭和29年

(1954)3月初版, 32p. 4月3日~4月11

日, 4月17日~5月30日分)

20006 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト ラジオサービスセンター, 昭和29年

(1954)5月初版, 32p. (6月5日~7月

31日分)

20007 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト ラジオサービスセンター, 昭和29年

(1954)7月初版, 32p. (8月1日~9月

26日分)

20008 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト 第2巻第4号 ラジオサービスセン

ター, 昭和29年(1954)9月初版, 32p.

10. 11月用(10月2日~11月28日分)

20009 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト 第2巻第5号 ラジオサービスセン

ター, 昭和29年(1954)11月, 32p. 12. 1

月用(12月4日~1月30日分)

20010 NHK中国語入門講座ラジオテキ

ト 第3巻第1号, ラジオサービスセン

ター, 昭和30年(1955)1月, 32p. 2. 3月

用(2月5日~3月27日分) p. 21に鉛筆

による書入れあり。

20 [中国語教育(講座)]

20001 NHK中国語入門ラジオテキスト

ラジオサービスセンター, 昭和27年(195

2)6月初版, 31p. 表1, (7月8日~9月

学研究会編、講談社、昭和29年9月1日、倉石武四郎記、(富士正晴画)刺客列伝全記

- 18108 史記(一)〈古典講座その16〉「中国語」第114号, p. 30~34, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和44年7月
- 18109 史記(二)〈古典講座その17〉「中国語」第115号, p. 30~34, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和44年8月
- 18110 史記(三)〈古典講座その18〉「中国語」第116号, p. 31~35, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和44年9月
- 18111 史記(四)〈古典講座その19〉「中国語」第117号, p. 32~36, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和44年10月
- 18112 古詩(一)〈古典講座その20〉「中国語」第118号, p. 34~38, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和44年11月
- 18113 古詩(二)〈古典講座その21〉「中国語」第119号, p. 31~35, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和44年12月
- 18114 古詩(三)〈古典講座その22〉「中国語」第120号, p. 32~36, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年1月
- 18115 古詩(続)〈古典講座その23〉「中国語」第121号, p. 34~38, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年2月
- 18116 古詩(続)〈古典講座その24〉「中国語」第122号, p. 32~36, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年3月
- 18117 礼記〈古典講座その25〉「中国語」第123号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年4月
- 18118 荀子〈古典講座その26〉「中国語」第124号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年5月
- 18119 韓非子(上)〈古典講座その27〉「中国語」第125号, p. 27~30(△34), 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和47年10月

京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年6月

- 18120 韓非子(下)〈古典講座その28〉「中国語」第126号, p. 27~30, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年7月
- 18121 列子〈古典講座その29〉「中国語」第127号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年8月
- 18122 墨子(上)〈古典講座その30〉「中国語」第128号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年9月
- 18123 墨子(下)〈古典講座その31〉「中国語」第129号, p. 29~32(△34)東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年10月
- 18124 孫子〈古典講座その32〉「中国語」第130号, p. 29~32(△12)東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年11月
- 18125 管子〈古典講座その33〉「中国語」第131号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和45年12月
- 18126 國語〈古典講座その34〉「中国語」第132号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年1月
- 18127 戰国策(上)〈古典講座その35〉「中国語」第133号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年2月
- 18128 戰国策(下)〈古典講座その36〉「中国語」第134号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年3月
- 18129 漢書(上)〈古典講座その37〉「中国語」第135号, p. 46~49, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年4月
- 18130 漢書(中)〈古典講座その38〉「中国語」第136号, p. 29~32, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和46年5月
- 18131 漢書(下の一)〈古典講座その39〉「中国語」第137号, p. 30~33, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和47年10月

- 18132 漢書(下之二)〈古典講座その40〉「中国語」第154号, p. 41~44, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和47年11月
- 18133 漢書(下之三)〈古典講座その41〉「中国語」第155号, p. 46~49, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和47年12月
- 18134 呂氏春秋(上)〈古典講座その42〉「中国語」第156号, p. 46~49, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和48年1月
- 18135 呂氏春秋(下)〈古典講座その43〉「中国語」第157号, p. 46~49, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和48年2月
- 18136 『中国古典講話』大修館書店, 昭和49年6月1日 A5, 262p. 昭和50年11月20日再版。本書の「はじめに」は1974年3月19日に書かれている。〈古典講座〉18092~18135の集成。

19 [中国語教科書]

- 19001 『中国語法読本』日光書院, 昭和23年(1948)5月初版, 97p.
- 19002 『中国語法読本』江南書院, 1955年5月第2刷, (1954年10月第1刷)87p. 14p. 昭和23「日光書院」本を排印せしもの。
- 19003 『駱駝祥子』詳解(一)「中国語雑誌」第6巻第1.2.3号, p. 35~42, 帝国書院, 昭和26年(1951)3月,〈読上会説〉欄, 昭和25年夏, 工藤篁教官ほか学生との那須合宿の成果。雑誌廃刊により(1)のみで終わる。
- 19004 「中国語初級教本」(拉丁化新文字採用), 日本中国友好協会準備会・中国留日同学会共催〈中国語講習会〉用テキスト, 1950?年
- 19005 「中国語初級教本」第1分冊3訂版
- I 1 (本文), 2 (どういえいばよいか), 3 (本文), 4 (どういえいばよいか), 5 (おさらい)~III (油印)26p. Shei a? Wo 倉石中国語講習会専用, 1951?年9月~
- 19006 「中国語初級教本」第2分冊改訂版IV~VI (油印)33p. 倉石中国語講習会専用1951年
- 19007 「中国語初級教本」第3分冊 VII~IX (油印)33p. 倉石中国語講習会専用, 1951年
- 19008 「中国語初級教本」第4分冊3訂版X~XII (油印)44p. 倉石中国語講習会専用, 1951年
- 19009 「中国語中級教本」(仮称) I~XXV 102p. (油印)装釘せず, ばら, 倉石中国語講習会専用, 1952年1月~3月 (各種「中国語」教科書つきまぜ編集)
- 19010 「中国語初級教本」上巻 I A (本文), B (どういえいばよいか), C (本文), D (どういえいばよいか), E (おさらい)~VI (油印)Sheia? Wo. 倉石中国語講習会専用, 1952年1月~
- 19011 「中国語初級教本」下巻第一分冊VII~IX 28p. (油印)倉石中国語講習会専用, 1952年
- 19012 「中国語初級教本」下巻第二分冊X~XII (油印)倉石中国語講習会専用, 1952年[未見]
- 19013 「LATINXUA SINWENZ ZHUNGUOXUA KEBEN 拉丁化新文字中国語課本」レコード用テキスト (油印)19p. 附レコード; 1952年「中国語初級教本」上・下(油印)の内容に一致する。
- 19014 「ラテン化新文字による中国語模範会話 初級」日本コロンビア株式会社, [] 初版, A K-221~2, 編集者のことば, は昭和27年6月30日付, レコード吹込者 a 女学生曹慶福, b 女学生

筆、解説、あとがき

- 18025 唐詩のリズム「婦人之友」第49巻第5号、昭和30年5月号、p.118~119。
(私のすぎた詩歌5), 婦人之友社、昭和30年5月1日『《とろろ火》(くろしお出版) p.16~18に収録』→29052
18026 唐詩のしらべ「古典の窓」第1巻第2号(漢文特集I), p.14~16, 角川書店、昭和34年9月5日
18027 杜甫の楽府「文学」第30巻第12号、1962-12, (杜甫特集) p.1243(15)~1247(19), 岩波書店、昭和37年12月10日
18028 代悲白頭翁・十五從軍征「漢文」漢文編修委員会編(代表者松枝茂夫その他)三省堂、昭和年 月 日, p.24~26 (中国古典文学全集「歴代詩選」による) p.76~77 (中国古典文学全集「歴代詩選」による)
18029 詞『中国文学史の問題点』(竹田復・倉石武四郎編)中央公論社、昭和32年6月1日, p.90~100, 塩谷温先生八十寿祝賀の論文集。→18011
18030 『宋代詞集』倉石武四郎編・訳(共訳:須田棹一・田中謙二)「中国古典文学大系20」解説p.421~441, あとがきp.442~443 (倉石武四郎) 菊判460p, 平凡社、昭和45年3月5日
18031 白蛇伝の改作について「会報」No. 7. (1956年7月?) 中文学会(仮称), 無刊記、昭和31(1956)年6月, p.1~7→18064, 18065
18032 ON THE METAMORPHOSIS OF THE "STORY OF THE WHITE SNAKE" 「LIEBENTHAL FESTSC-HRIFT」Indo 西ベンガル, Santiniketan, Visva-Bharati 大学教授 Lieben-thal の頌寿記念論文集, 「Sino-Indian Studies」 「中印研究」 Vol. V Nos. 3-4, (Lieben-

- thal 頌寿記念号) 1957-5, KSHITIS ROY編, p.138~146
18033 西湖の白蛇「中国文化研究」第1号(中国文化研究会会報) p.3~6, 1961年11月1日、中国文化研究協会。1961. 7. 31同会例会での講演要旨。
18034 『金瓶梅詞話』萬曆本(日光山輪王寺慈眼堂蔵本, 徳山・毛利氏徳息堂蔵本)推薦のことは「大安」5月号, 「金瓶梅」特集, p.29, 株式会社大安、1963年5月。与北京図書館蔵本同版。
18035 紅樓夢をよんだひと「日中文化交流」第85号, p.6, 日本中国文化交流協会、1964年9月25日
18036 紅樓夢40年 テラシ、1964年(『倉石武四郎 中国へかける橋』日中学院編遺稿一覧表による)
18037 紅樓夢とわたくし「倉石中国語講習会十五周年研究科紅樓夢記念文集」, 1966年6月 →06011
18038 老残遊記二集 分担翻訳原稿の合本, 計292頁(131枚)分担翻訳者:江頭廣, 勝谷喜雄, 村尾力, 小野沢精一, 細谷繁盛, 頼惟勤, 渡辺勝己。倉石先生書き入れ本。
18039 『中国新文学大系 小説一集之上』(茅盾編) 監修者のことば(昭和18年9月, 昭和21年4月26日追記) 翻訳代表者:倉石武四郎(市川安司, 玉貫公寛, 工藤豊, 足立原八束, 内田道夫) B6. p.444, 大日本雄弁会講談社、昭和21年12月20日
18040 新文学運動とその工具問題「日本中国学会報」第一, 昭和24年, p.3~12, 日本中国学会, 昭和25年3月30日
18041 中国文学はどこへ行くか「世界」第62号, 昭和26年2月, p.107~117, 岩波書店、昭和26年2月1日

- 18042 中国文学『研究社世界文学辞典』p.611~614, 研究社、1954年(主幹斎藤勇, 中国文学監修者倉石武四郎)
18043 中国文学のゆくて——老舎, 許広平, 余平伯, 謝冰心, 趙樹理, 田漢, 蕭三——「新日本文学」1955年2月号(第91号), 第10巻第2号, p.81~89, 新日本文学会、昭和30年2月1日(1954年10月13日, 北京放送局録音, 於北京・西総布胡同「中国作家協会」, テーマ「中国文学的展望」の翻訳)
18044 人民文学篇『現代中国文学全集』第15巻, 蕭三, 邵子南, 李季, 田間, 康濯, 胡可, 馬烽, 興台村劇団, 駱賓基, 艾蕪, 高玉宝, 張天翼, 馬凡陀の翻訳, 監修黎波, 河出書房、昭和31年5月25日, B6, 355p
18045 「三里湾」のむずかしさ『中国現代文学選集』4. (趙樹理集) 月報第4号, B6. p.1~4, 平凡社、1962年5月5日
18046 『中国新児童文学集』「世界少年少女文学全集(第二部)」第12巻, 東洋編, 「解説」(倉石武四郎), 創元社、昭和32年6月20日, 301p<小説>白山文, 康濯, 任大星, 蕭平, 任大霖, 李惠薪, 王若望, 魏金枝, 吳向真, 張有徳, <詩>阮章競, 熊塞声, <童話>陳伯吹, 包蕾, 嚴文井, <劇>張天翼。河出書房『現代中国文学全集』15「人民文学篇」に張天翼の劇は既収。
18047 “お話出て来い。” 人まねインコ①② NHK放送台本(油印)2冊. ①13p. ②11p. ①昭和35年2月8日(月)AM10:05~10:10 : 20②昭和35年2月9日(火)AM10:05~10:20 作バオ・レイ(包蕾), 訳倉石武四郎
18048 金色のさざえ「文化の日特集」童話詩, NHK放送台本(油印)47p. 昭和36
- 年11月3日(金)AM4:25~4:59(第1放送)原作阮章競, 訳倉石武四郎, 脚色伊藤海彦
18049 たからのひょうたん 張天翼作, 倉石武四郎訳, 「少年少女世界文学全集」44, 東洋編第4巻, p.5~162, 講談社、昭和37年8月20日
18050 [座談会] 児童文学における中国と日本「世界児童文学」1960年12月号, 第1巻第4号, 世界児童文学研究会編, 東京, 教育画劇, 1960年, [未見]
18051 日本漢文学史の諸問題「国語と国文学」第402号(特輯 日本漢文学の諸問題) p.1~7, 東京, 至文堂、昭和32年(1957)10月1日, 東京大学国語国文学会編
18052 王者(1)評書『聊齋志異』「中国語」9月号, p.15~26, 北辰(編集沢山晴三郎) 昭和34年(1959)9月
18053 王者(2)評書『聊齋志異』「中国語」10月号, p.15~20, 北辰, 昭和34年(1959)10月
18054 王者(3)評書『聊齋志異』「中国語」11月号, p.13~19, 北辰, 昭和34年(1959)11月
18055 王者(4)評書『聊齋志異』「中国語」12月号, p.15~21, 北辰, 昭和34年(1959)12月
18056 王者(5)評書『聊齋志異』「中国語」1月号, p.13~20, 北辰, 昭和35年(1960)1月10日
18057 王者(6)評書『聊齋志異』「中国語」2, 3月号(合併号) p.24~30, 北辰, 昭和35年(1960)3月25日
18058 王者(7)評書『聊齋志異』「中国語」4月号, p.21~27, 北辰, 昭和35年(1960)4月20日
18059 王者(8)評書『聊齋志異』「中国語」

- 月号(第254号)p.2~3, 渋沢青淵記念財団竜門社, 昭和45年(1970)5月1日
 16019 『五経・論語』筑摩書房「世界文学全集」3, B6, 553p, 易・書経・詩経・国風・儀礼・礼記・春秋左氏伝・春秋公羊伝・論語(うち『論語』倉石武四郎訳)p.431~529, 昭和45年9月5日←16017
 16020 『論語 孟子 大学 中庸』倉石武四郎編, 訳(論語), 筑摩書房「筑摩世界文学大系」5, 1972年11月
 16021 「歿後語」と「論語」『中国語』1974年8月号, 第175号, p.2, 東京, 中国語友の会(大修館), 昭和49年8月 →10033
 16022 孟子のことば NHK「人生読本」古典をたずねて(放送, 録音テープ)内容: 孟子とその時代, 人間のあましさ, こころのうつくしさ, ただしさつよさ, 人民のために, いろいろなことば(『とろ火』(くろしお出版)p.166~207に収録) →29052所収

17 [中国古典]

- 17001 古典を今日に生かすもの 副題: 古典の現代化はどうあるべきか, 漢字問題, 漢文科復活問題の帰趣はいかにあるべきかについて「教育技術」第7巻第5号, p.10~14, 教育技術連盟編集, 小学館発行, 昭和27年(1952)8月1日
 17002 新中国と古典「文庫」34, p.6~8, 岩波書店, 1954年7月10日
 17003 中国古典のよみかた「言語生活」第129号, (特集 漢文はどうなる)p.32~36, 昭和37年(1962)6月, 国立国語研究所監修, 筑摩書房, 昭和37年6月1日
 17004 [書評] 中国古典を現代人に——貝

- 塚茂樹著『諸子百家』「朝日ジャーナル」Vol.4 No.5, (本 批評と紹介)p.56~57, 朝日新聞社, 1962年2月4日 →18018
 17005 古典はどのように読まれているか「文芸春秋」第43巻第8号, p.105, 現代中国100問100答, 文芸春秋新社, 昭和40年(1965)8月1日

18 [中国文学]

- 18001 漢字の特質と支那文学「漢学会雑誌」第7巻第3号, p.27(299)~41(313)漢学会, 昭和44年11月5日
 18002 中国語と中国文学「中国語と語」(油印)p.5~6, 北京興亜学院(北京)昭和46年7月1日(編輯兼発行者: 那須清)
 18003 支那語と支那文学「新体制国民講座」第6輯「文学篇」p.141~180, 朝日新聞社, 昭和46年11月12日
 18004 中国文学を鑑賞するには何々を読むべきか『中国文学をどう鑑賞するか』謝冰心著, 倉石武四郎訳, 大日本雄弁会講談社, 昭和24年9月30日に附載 p.139~169 →14012
 18005 中国文学の概観(油印)p.1~16, 1950年? [太古から秦まで] X~B C 207 [漢の時代] B C 206~A D 219 [魏晉から南北朝まで] 220~588 [隋唐時代] 589~906 [五代から宋まで] 907~1276 [金元時代] (1127)~1277~1367 [明の時代] 1368~1643 [清の時代] 1644~1911 [現代] 1912~1950
 18006 大地にわく抵抗——中国抗戦文学について「東京大学学生新聞」第13号,

- 講座第二回講演要旨(1962年12月8日), 「星火」第12号, p.39~41, 1963年3月15日
 18015 [書評] 目加田誠著「詩経 訳注篇」(昭和24年11月, 丁字屋書店, 「東京支那学会報」7号(油印), 東大・東京支那学会, 昭和25年
 18016 詩経のうた 中国の古代文学特別講座第三回講演要旨(1963年1月17日), 「星火」第12号, p.36~38, 1963年3月15日
 18017 詩経のころ NHKの「人生読本」古典をたずねてで放送, 録音テープ。内容: 詩経とは, よろこび, なげき, うらみ, 生活のうた(『とろ火』(くろしお出版)p.77~116に収録)
 18018 「老子・莊子・列子・孫子・呉子」『中国古典文学大系』4, 『莊子』関正郎と共訳, p.39~187, 『諸子百家』解説, p.483~485, 平凡社, 1973年6月
 18019 韓非子と墨子『中国古典文学大系』5, 韓非子・墨子』月報7, p.1~3, 東京, 平凡社, 1968年4月5日
 18020 詩人屈原 中国の古代文学特別講座第四回講演要旨(1963年2月15日)「星火」第12号, p.33~35, 1963年3月15日
 18021 屈原『語録 永遠の言葉』「世界教養全集」別巻4(東洋編)p.294~295, 大内兵衛編, 平凡社, 1963年9月12日
 18022 「怪」を語る「東京支那学会報」第4号, 昭和33年6月, p.1~4, 東京支那学会, 昭和33年6月1日
 18023 中国の怪談とその基盤「世界」第288号, p.249~259, 岩波書店, 1969年11月
 18024 『歴代詩選』「中国古典文学全集」31, 平凡社, 昭和35年9月24日, (須田植一氏とともに翻訳) 原詩選択, 訳稿加

- 1951年5月15日, 2p.
 18007 監修にあたって『中国文学選書』(全五十冊)第一期刊行監修者のことば, 見本小冊子36判, 4p, 第一回配本『しばまね花』(「閑不敗の花朶」馬加作, 牧浩平訳)最終頁に収録, 弘道館, 昭和29年1月15日 茅盾『ホンコン脱出記』(小川環樹訳)昭和29年5月10日, 老舎『春華秋実』(黎波訳)昭和29年5月25日になし。
 18008 監修者のことば——中国文学『解説世界文学史年表』(創立七十周年記念出版)パンフレット, 中央公論社, 1956年11月
 18009 中国篇『東洋の名著』毎日ライブラリー, 毎日新聞社編刊, 昭和31年9月10日, B6, 中国文学p.1~82(倉石武四郎), 中国哲学p.83~131(西順蔵), 中国仏教p.132~166(古田紹欽)
 18010 『中国文学史』中央公論社, 昭和31年10月25日, B6, 217p, 附中国文学史年表, 人名索引60p『解説世界文学史年表』1957年, 中央公論社の「中国」部分を整理)
 18011 『中国文学史の問題点』竹田復と共編, 中央公論社, 昭和32年6月1日, 222p.「序」(竹田復)「あとがき」(倉石武四郎)
 18012 近世・現代中国文学史「国文学会誌」4号, p.50~64, 新潟大学国文学会, 昭和35年(1960)3月31日(6月29日~7月3日, 漢文学外来講義の要旨)
 18013 中国文学のみかた 家庭婦人のための中国語講座特別講座, 中国の古代文学第一回講演要旨, (1962年11月15日), 「星火」第11号, p.1~2, 1962年12月12日
 18014 神話の世界 中国の古代文学特別

- (614号), p.170~173, 昭和30年10月1日
 14017 寂寞 謝冰心作(翻訳)『少年少女のための世界文学宝玉集』下, p.166~182, 阿部知二, 神西清, 本多秋五, 山室静共編, 宝文館, 昭和32年1月25日
 14018 シャビョーしん『世界大百科事典』14, p.1, 東京, 平凡社, 1957年4月10日
 14019 シェ・ピンジン タオ・チャーの夏休み日記『岩波少年文庫』143 (小学上級以上) 翻訳, 岩波書店, 昭和32年7月10日, 246p. 附「あとがき」。(謝冰心「陶奇的暑期日記」1956)

14020 中国の少年たち「どろとく」六年(教科書)p.36~42, 二葉株式会社(編集委員代表 牧野栗東大教育教授) 昭和34年2月20日。謝冰心「タオ・チャーの夏休み日記」岩波少年文庫143, 昭和32年7月10日, 岩波書店, 「八月二十一日」より, 抜粋。

14021 陶奇の夏休み日記 謝冰心作(翻訳), 『岩波少年少女文学全集』19, p.175~288, 岩波書店, 昭和37年(1962)8月10日 (「記者あとがき」)

- 14022 寂寞 謝冰心作(翻訳), 『少年少女世界文学全集』44, 東洋編第4巻, p.339~357, 講談社, 昭和37年8月20日
 14023 わかれ 謝冰心作(翻訳), 『少年少女世界文学全集』44, 東洋編第4巻, p.358~371, 講談社, 昭和37年8月20日
 14024 小さき友へ 謝冰心作(翻訳), 『少年少女世界文学全集』44, 東洋編第4巻, p.372~384, 講談社, 昭和37年8月20日
 14025 わかれ 謝冰心作(翻訳), 『世界青春文学名作選』10, p.333~345, 学習研究社, 昭和39年5月1日 (丸山昇解説)
 14026 シャビョーしん『世界大百科事典』14, p.160, 東京, 平凡社, 1965年

4月25日

15 「老 舍」

15001 帰ってきた老舍「文学」昭和26年9月号, 第19巻第9号(特集 日本文学における民族の問題) p.791(65)~800(74), 岩波書店, 昭和26年9月10日

15002 中国新文学の問題——老舍を通して——「東京支那学会報」第9号, (油印), 昭和26年9月, 東京支那学会(東京大学文学部中国哲学文学研究室), 昭和26年9月30日(昭和26年5月20日公開講演要旨)

15003 老舍の「方珍珠」「中国文芸」13(油印), p.10~12, 中国文芸研究会, ハト書房, 昭和27年12月1日

15004 老舍(舒慶春)年譜「現代中国」21, (油印)p.16~25, 現代中国学会編集, 1953年7月25日

15005 老舍について『現代中国文学全集』巻4, (老舍篇上 四世同堂) 月報(2), 1954Ⅲ, 河出書房, 昭和29年3月

15006 北京っ子老舍(手訂作「老舍先生」)「泉座」1, <北京の唄い女>, 劇団「泉座」機関誌創刊号, p.3~4, 1955年9月
 15007 中国文学的展望(上) 老舍作(翻訳)「中国語」創刊号, p.26~28, 邦光書房, 昭和30年6月1日。老舍の略歴を付す。→18043

15008 中国文学的展望(下)「中国語」1955年7月号, p.23~26, 邦光書房, 昭和30年7月20日。注音符の音注, 語注付き翻訳

15009 「老舍先生著作等展観目録」(油印)4葉, 7p, 1965年4月23~24日, 於日

16009 徳によって導き, 礼によって統制する(論語のことばから⑦)「PHP」137(1959), p.41, PHP研究所, 昭和34年9月1日

16010 義にのみ従う(論語のことばから⑧)「PHP」138(1959), p.45, PHP研究所, 昭和34年10月1日

16011 ひとつで貫く(論語のことばから⑨)「PHP」139(1959), p.31, PHP研究所, 昭和34年11月1日

16012 学問をこのむ(論語のことばから終)「PHP」140(1959), p.57, PHP研究所, 昭和34年12月1日

16013 人間孔子をかたる NHK「人生読本」古典をたずねてで放送, 録音テープ。内容: ひと, たちば, たのしみ, くらし, いかり, なげき, ひとをおしえて。→29052『とろろ火』(くろしお出版) p.117~165に収録

16014 論語と中国文化『世界大百科事典』32号, 「聞き書き百科あ・か・る」と(43) p.4~6, 平凡社, 1963年4月

16015 「論語 孟子 大学 中庸」『世界文学大系』69, 『論語 孟子 大学 中庸』倉石武四郎編, 訳(論語) p.5~150 (索引附図 p.91~140) →16017, 16019

『四書』解説, p.337~339, 『論語』解説, p.340~344, 筑摩書房, 昭和43年3月30日

16016 論語のよみかた「中国文化研究」(中国文化研究協会報) 第12号, p.6~13, 中国文化研究協会, 1968年8月20日

16017 「口語訳 論語」筑摩書房(筑摩叢書152) B 6, 371p, 1970年1月30日。はしがき(一)~(四)42p, 漢語索引 p.265~332, 仮名索引 p.333~356, 漢字索引 p.357~371 →16019

16018 わたくしの「論語」訳「青洲」5

16 「論語ほか」

16001 「論語」日光書院, 昭和24年6月25日, B 6, 209p, はしがき(一)~(四) p.1~29, 昭和23年6月(記)(口語訳)→16015, 16017

16002 孔子のことば 山本有三編集『国語中学3年上』, 総合編, p.126~129, 日本書籍株式会社, 昭和33年5月5日

16003 人が分かってくれなくて(論語のことばから①)「PHP」131(1959), p.37, PHP研究所, 昭和34年3月1日

16004 食糧を棄てる(論語のことばから②)「PHP」132(1959), p.51, PHP研究所, 昭和34年4月1日

16005 恩恵をおもう(論語のことばから③)「PHP」133(1959), PHP研究所, 昭和34年5月1日

16006 ロき上手(論語のことばから④)「PHP」134(1959), p.43, PHP研究所, 昭和34年6月1日

16007 親しむがたよらぬ(論語のことばから⑤)「PHP」135(1959), p.51, PHP研究所, 昭和34年7月1日

16008 三人であるけば先生がいる(論語のことばから⑥)「PHP」136(1959), p.49, PHP研究所, 昭和34年8月1日

12031 三つの中国語辞典 編集順調に進む——日中学界の友情の□□——〈中日大辞典・漢日大辞典・日中辞典〉「朝日新聞」昭和44年(1969)4月30日(夕刊)〔未見〕

12032 〔講演〕中国語辞典の話「中国語」1971年6月号, 第137号, p.21~26, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和46年6月

12033 倉石文言辞典の話「教学」創刊号, この人に聴く(1)……戸川芳郎「ことばと思考について」p.30~31, 日学院出版局, 1975年12月25日

12034 倉石「文言」辞典の構想 牛島徳次著『中国古典の学び方——現代中国語を基にして』p.77~81, 大修館書店, 1977年3月1日

12035 (倉石)文言辞典の構想「教学」6号, この人に聴く(6)……頼惟勤, p.32~38, 日学院出版局, 1978年10月

13 〔ことばと思维と社会〕

13001 支那の文字及び言語に現れたる倫理思想『岩波講座 倫理学』第11冊, p.1~27, 昭和16年

13002 〔書評〕中村元著『東洋人の思维方法』——第一部インド・シナ人の思维方法——「哲学雑誌」第63巻, 第701号, p.88~91, 哲学会編, 白日書院発行, 昭和23年11月1日。「書評」欄の2。(1は, 辻直四郎, 3は, 川田熊太郎)

13003 中国人はどう考えるか「東京支那学会報」第2号, (油印)p.1, 昭和24年10月1日

13004 中国人はどう考えるか「朱鳥」新

年号(通巻第4号), 昭和25年, (油印)p.4~21, 朱鳥社, 昭和24年12月5日

13005 中国人はどう考えるか(油印)31p.「朱鳥」新年号(通巻第4号)を単刊せしもの。

13006 AI「創立廿五周年記念論文集」京都大学人文科学研究所, p.349~363, (「東方学報京都」25冊・「人文学報」第5冊合併) 昭和29年10月30日

13007 中国人の言語生活「言語生活」第41号, 1955-2, p.47~51, 筑摩書房, 昭和30年2月1日

13008 ころとこととことば「ことば」5『ことばの講座』第一巻月報)p.5~7, 東京創元社 1956年5月31日, 第5回配本付録。→26011に再掲。

13009 中国人の言語生活「外国人の言語生活」(西尾実編)p.1~13, 明治書院, 昭和33年8月10日

13010 中華思想「東亜時論」第1巻第4号1959年4月号, p.19~20, 東京, 霞山会, 昭和34年4月

13011 〔西順蔵と座談会〕正統と異端——儒家的思维の形成と展開『世界の歴史』3 東アジア文明の形成, p.291~314, 筑摩書房, 1960年11月

13012 〔書評〕藤堂明保著『漢字の語源研究』(学燈社, A5, 784p, 3400円)「言語生活」第143号, 1963-8, 昭和38年8月1日, 筑摩書房「言語生活」編集部(国立国語研究所監修)〔特集わが家のことば〕「わたしの読んだ本」欄, p.86~87

13013 ころとこととことば「小黑板」第24号, 1963年10月6日, p.2~3 (巻頭のことば), 倉石中国語講習会(倉石武四郎)「中国へかける橋」(画紀書房)p.398に収録)

本社, 昭和15年10月1日。『をよめの旅より子どもの国のみなさまへ』三省堂刊ではp.193—「山のお話し」に相当する。14008 乙女の旅より子供の国へ〔19~23〕

(第七回)「新女苑」第4巻第11号, p.90~104, 実業之日本社, 昭和15年11月1日

14009 乙女の旅より子供の国へ〔24~29〕(第八回)「新女苑」第4巻第12号, p.122~134, 実業之日本社, 昭和15年12月1日

14010 『をよめの旅より子どもの国のみなさまへ』謝冰冰心作(「寄小説者」編訳), 三省堂, 昭和17年7月20日, 329p, 「あとかぎ」12p

14011 病気見舞 謝冰冰心作(編訳)「新女苑」第11巻第11号, p.34~36.(特輯 結婚難についての考察) 実業之日本社, 昭和22年11月1日

14012 『中国文学をどう鑑賞するか』謝冰冰心作(編訳), 大日本雄弁会講談社, 昭和19年9月30日, 169p, 附「中国文学を鑑賞するには何々を読むべきか」p.139~169(倉石武四郎)→18004にも。

14013 詩人と政治 謝冰冰心作(編訳)「婦人之友」昭和26年第8号, p.25~34, 婦人之友社, 昭和26年8月1日

14014 『お冬さん』謝冰冰心作(編訳)「市民文庫」90, 196p, 河出書房, 昭和26年11月15日

14015 短篇集 謝冰冰心『現代中国文学全集』第14巻, 謝冰冰心『超人』『寂草』『分れ』『お冬さん』p.1~40, (葉紹鈞『潘先生の遭難』p.51~69), 河出書房, 昭和30年3月31日

14016 〔座談会〕北京—東京の話題〈原水爆禁止世界大会中国代表謝冰冰心女史を囲む〉出席者: 謝冰冰心, 倉石武四郎, 三島すみ江, 鈴木きぬ, 「婦人画報」10月号

14 〔謝冰冰心〕

14001 『乙女の旅より子供の国へ』謝冰冰心作(編訳), 京都, 恒星社(油印)41p.(挿込み「請求書」により, 昭和15年3月)

14002 乙女の旅より子供の国へ〔1~6〕(新連載編訳小説(第一回)「新女苑」第4巻第5号, p.128~140, 実業之日本社, 昭和15年5月1日

14003 乙女の旅より子供の国へ〔7~9〕(第二回)「新女苑」第4巻第6号, p.132~146, 実業之日本社, 昭和15年6月1日

14004 乙女の旅より子供の国へ〔10~12〕(第三回)「新女苑」第4巻第7号, p.178~189, 実業之日本社, 昭和15年7月1日

14005 乙女の旅より子供の国へ〔13~15〕(第四回)「新女苑」第4巻第8号, p.178~189, 実業之日本社, 昭和15年7月1日

14006 乙女の旅より子供の国へ〔16~18〕(第五回)「新女苑」第4巻第9号, p.86~99, 実業之日本社, 昭和15年9月1日

14007 乙女の旅より子供の国へ〔遠い国から小さいみなさまへ〕(第六回)「新女苑」第4巻第10号, p.98~110, 実業之日本社

11 方言

- 11001 聞喜県の方言「史林」19—3, 1934年7月, p. 576.
- 11002 『劇語審訳 付索引』京都大学東洋史研究室(油印), 1956年, 本文53p. 索引32p. (凡例「昭和十五年東方文化研究所において倉石武四郎教授所蔵本に拠り, 油印せるものを覆印したものである。なお本文の補訂には入矢義高教授の指教による所が多い。」…)
- 11003 「呉語研究資料展覧目録」中国語学研究会(油印), 昭和21年月日
- 11004 蘇州語の音節について(昭和22年2月12日報告)「帝国学士院紀事」第5巻第2, 3号, p. 91~110 (高田久彦と共著), 附音節表, 昭和22年11月
- 11005 京都大学中国語学研究室の成績について「中国語学」25, p. 1~3, 中国語学研究会(東京大学文学部中国哲文研究室内), 昭和24年4月20日 →10008にも
- 11006 中国語における北京語の地位「中国研究」15, p. 2~15, 現代中国学会編(東京九段, 中国研究所), 1952年1月25日, (昭和26年2月23日, 中国研究所での講演)
- 11007 吾南の方言資料『諸橋博士古稀祝賀記念論文集』p. 289~306, 東京教育大学東洋文学研究室内諸橋徹次先生古稀祝賀記念会刊, 昭和28年10月25日
- 11008 音響学との協力による中国諸方言の声調変化に関する実験的研究——語集および文型——代表者倉石武四郎「各個研究および助成研究報告集録」(昭和27年度)哲史文学編, 187p, 昭和28年11月
- 11009 『海上花』と呉語『中国古典文学大系』49 海上花列伝「月報」20, p. 1~3, 東京, 平凡社, 1969年5月12日
- 11010 標準語のこと「中国語」176, 1974年9月, p. 2, 東京, 中国語友の会, 昭和49年9月

12 辞典

- 12001 『国語辞典』を迎えて「中国語学」4, (油印)p. 1~2, 中国語学研究会(京都帝国大学文学部中国語学研究室内)昭和22年6月1日
- 12002 『国語辞典』を囲む座談会「中国語学」6, (油印), p. 1~4, 中国語学研究会, 昭和22年8月1日, 入矢義高, 大原信一, 鳥居鶴美, 村尾力, 金子二郎, 田中謙二, 那須清らと座談。昭和22年7月27日(日)13:00~約3時間, 京大文第3演習室, 参加者約25名。
- 12003 関於中国国語辞典的座談会——戦時中中国偉大的出版物之紹介と批評——「華文国際」創刊号, 民国37(1948)年1月2日, 2p, 倉石武四郎等。
- 12004 国語辞典「中国文化」4輯, p. 11, (京都)中国文化協会, 昭和23年8月
- 12005 現代中国辞典によせて「現代中国辞典」内容見本, (中国研究所編, 現代中国辞典刊行: 代表伊藤武雄) 1950年
- 12006 愛用の辞書『国語辞典』(中国大辞典編纂処編, 商務印書館発行, 全8冊)「朝日新聞」24200号, 昭和28年6月25日, 6p, 読書欄
- 12007 『ラテン化新文字による中国語辞典 第一分冊』序 (1954年9月20日記)(油印) 2p.
- 12008 『ラテン化新文字による中国語辞典 第一分冊』東京, 和平出版社, B. 5. 1954年9月, 66p
- 12009 『ラテン化新文字による中国語辞典 第二分冊』東京, 和平出版社, 1955年, 90p
- 12010 『ラテン化新文字による中国語辞典 第三分冊』東京, 和平出版社, 1956年, 66p
- 12011 『ラテン化新文字による中国語辞典 第四分冊』東京, 和平出版社, 1957年, 54p
- 12012 『ラテン化新文字による中国語辞典 第五分冊』東京, 和平出版社, 1957年, 102p
- 12013 『ラテン化新文字による中国語辞典 第六分冊』東京, 和平出版社, 1958年, 142p, 「目次」「索引」「あとがき」(1958年6月28日記)(油印), B. 5, 全6冊—520p, 目次5p, 索引14p。
- 12014 『ラテン化新文字による中国語辞典 第七分冊 品詞による索引』東京, 和平出版社, 1958年10月(油印)178p, (「序」1958年10月9日記)。
- 12015 中国の字書「図書」昭和30年5月号, 第68号, p. 19~21, 岩波書店, 昭和30年5月5日(説文解字の大小徐本, 唐写本)
- 12016 中国語辞典の編集について「中国語学」69, p. 3~7, 中国語学研究会(東京大学文学部中国語学研究室内), 昭和32年12月15日
- 12017 ラテン化新文字による中国語辞典「小黒板」第10号, 1958年6月, p. 1~4. 倉石中国語講習会(日中学院編『倉石武四郎 中国へかける橋』(重訂書房) 288p. に収録)
- 12018 中国語辞典の索引について「中国語学」79号, p. 26~27, 中国語学研究会(大阪外国語大学中国語学研究室内), 昭和33年10月15日
- 12019 日漢辞典「朝日新聞」1959年4月23日夕刊, きょうきょう欄 →29042
- 12020 漢和辞典と中国語辞典「文学」第30巻第2号, 1962—2, 「日本の辞書」p. 124(12)~130(18), 岩波書店, 昭和37年2月10日
- 12021 中国語辞典のできるまで「小黒板」第20号, p. 17~19. 倉石中国語講習会, 1962年4月10日
- 12022 ことばの戸籍「中国語」Vol. IV, 1962年5月号, p. 2, K K北底, 1962年4月26日 →29067
- 12023 『岩波中国語辞典』について「岩波中国語辞典出版記念会実行委員会ニュース」1963年6月17日 (『倉石武四郎 中国へかける橋』292p. に収録)
- 12024 辞典の校正をおえて「星火」第13号, p. 1, 家庭婦人のための中国語講座, 1963年6月
- 12025 『岩波中国語辞典』岩波書店, 1963年9月16日第1刷, B. 40, 914p, 序説25p. (1966年4月1日, 第2刷) 1963年5月「はしがき」, 1963年6月「あとがき」
- 12026 『岩波中国語辞典』全8冊 組版原版大, 東京, 岩波書店
- 12027 ごあいさつ 岩波中国語辞典出版記念 プログラム, 1963年10月26日
- 12028 著者のことば「岩波中国語辞典・ソフレット」1963年10月26日
- 12029 口語系古典語彙の蒐集について(大会レジュメ)「中国語学」145, p. 10, 中国語学研究会(東京大学文学部中国語学研究室内), 昭和39年10月15日
- 12030 翻訳と辞典「文学」第35巻第3号, 1967—3, 「中国文学の受容と翻訳」, p. 263(31)~271(39)岩波書店, 昭和42年3月10日

- の神田・学会館での講演記録)
09008 最近の支那における「国文」教學法の改進について「東洋史研究」8-2, 1943年6月, p. 140
09009 支那語の目ざめ「語學教育」第190号, p. 1-3, 語學教育研究所(文部省内), 昭和18年7月1日。倉石先生は研究所理事。

10 [中国語学]

- 10001 支那語になった日本語『国語文化講座』第6巻, 国語進出篇, p. 302-311, 朝日新聞社, 昭和17年(1942)1月20日
10002 黎錦熙著『比較文法』(一~五)(伊地智善繼と共訳), 「支那及支那語」5巻1, 2, 3, 4, 7号, 「支那語文化」改題 昭和18年1, 2, 3, 4, 7月最終号
10003 博良戴著『助詞的研究』序(油印), 昭和22年8月序, 東京帝国大学講師博良戴に依頼せる中国語における助詞および補助動詞の研究(昭和18~20年ごろ)。養徳社刊, 平岩房次郎校訂。
10004 「新刊紹介」鳥居鶴美著『華語助動詞の研究』「中国語学」9, (油印) p. 4, 中国語学研究会, 昭和22年11月1日。養徳社刊, 平岩房次郎校訂。
10005 「新刊紹介」王力氏の『中国語法理論』「中国語学」6, (油印), 中国語学研究会, 昭和22年8月1日。署名なきも本邦初の手書たる, 倉石先生の紹介なることは誤りなかるべし。
10006 中国音韻史の構想「中国語学」10, (油印), p. 1-4, 中国語学研究会, 昭和22年12月1日
10007 「論評」藤堂明保「中国語の虚詞に於ける位相の問題」「中国語学」12, (油

印) p. 3-4, 中国語学研究会, 昭和23年2月1日

10008 京都大学中国語学研究室の成績について「中国語学」25, p. 1-3, 中国語学研究会(東京大学中国哲文研究室内), 昭和24年4月20日 → 方言11005にも。

10009 中国地名人名のカナ書きについて附「ペーピン語音節表」2p. 「中国語学」26, (油印) p. 2-5, 中国語学研究会(大中国哲文学研究室内), 昭和24年5月25日

10010 中国言語学の建設「中国語雑誌」第4巻第3号, p. 1-9, 帝国書院, 昭和24年8月3日, 「新制大学免足記念特載」
10011 「学界展望」語学—国内・国外—(頼惟勤と共に)「日本中国学会報」第1, 昭和24年, p. 106-109, 日本中国学会, 昭和25年3月30日

10012 「学界展望」語学(頼惟勤と共に)「日本中国学会報」第2, 昭和25年, p. 137-140, 日本中国学会, 昭和26年3月30日

10013 「学界展望」中国語学(藤堂明保, 頼惟勤と共著)「日本中国学会報」第6, 1954年, p. 10-16, 日本中国学会, 1954年10月1日

10014 『比較文法 詞位与句式』(上册)——(下册)刊行されず)黎錦熙著, 錢玄同題(比較文法——詞位および句式)伊地智善繼と共訳, (油印) 251p, 大阪外大, 1950年

10015 中国の歌の歌いかたから見た中国語の音節の性格について「中国語学研究会会報」23, p. 1-4, 中国語学研究会(京都立大中国文学研究室), 1954年2月20日

10016 中国の語学界「中国語学」34, p.

4-12, 中国語学研究会(東京, 早大文学部研究室内), 1955年1月15日

10017 現代中国語の課題——日中友好の旅から帰って「国民の科学」通巻2号, p. 25-31, 民主主義科学者協会, 昭和30年(1955)4月1日 民科東京支部言語部会で話したものを編集部が整理, 倉石加筆。→25035収

10018 古典としての文字訓詁学書「中国語研究史」[1]『中国語学事典』Ⅲ, p. 1-9, 江南書院, 1957年9月29日, 中国語学研究会編 → 『漢語研究小史』王立達編譯, 守架校訂, 商务印书館, 1959年11月初版(上海), p. 1-10 (増刪改写)
10019 中国に於ける文字音韻学の発達「中国語学事典」Ⅳ 研究史篇[1] p. 293-301, 江南書院, 1958年1月29日, 中国語学研究会編

10020 Zōu 「小黑板」第14号, p. 1-2, 1959年6月(日中学院編『倉石武四郎中国へかける橋』(画記書房) p. 297に収録)

10021 ちゅうごくご『アジア歴史事典』6, p. 233-234, 平凡社, 1960年12月13日

10022 中国語法の諸問題 第13回大会特別講演要旨「中国語学」124, p. 10, 中国語学研究会(東京大学文学部中国文学研究室内), 昭和37年9月15日

10023 現代語法における二, 三の問題「中国語学」128, p. 1-8, 中国語学研究会(東京大学文学部中国文学研究室内), 昭和38年3月15日

10024 中国語のスタイルグラママーについて(上)「中国語学」152, p. 1-11, 中国語学研究会(東京大学文学部中国文学研究室内), 昭和40年7月15日

10025 中国語のスタイルグラママーについ

て(下)「中国語学」153, p. 1-13, 中国語学研究会, 昭和40年8月15日

10026 語学の面で意図したもの, その成果ならびに今後の課題「収獲」第3号(倉石中国語講習会創立15周年記念特集号)1951-1966, 1966年6月20日, p. 34-35, 1966. 5. 24 (記) (倉石武四郎 中国へかける橋) p. 251に収録

10027 「推薦文」学界最初の業績——古代文法論の完成——牛島徳次著『漢語文法論』(古代編), 大修館書店, 昭和42年1月10日刊ペンフレット, (中古編)1971年10月20日, 大修館書店ペンフレット

10028 「新刊紹介」『中国文化叢書』1『言語』「中国語」1968年1月号, p. 17-18, 東京, 中国語友の会, 昭和43年1月

10029 中国語の機微をさぐる「中国語学」204, p. 1-8, 中国語学研究会(東京大学中国文学研究室内), 昭和45年11月15日

10030 「講演」中国のことば「中国語」132, 1971年1月号, p. 41-45, 東京, 中国語友の会(大修館書店), 昭和46年1月

10031 中国語と日本語『鳥居久靖先生華甲記念論集(中国の言語と文学)』p. 左3-10, (天理大学内)鳥居久靖教授華甲記念会刊, 昭和47年12月1日

10032 敬後語について「日中学院報」第58号, 1974年6月1日, p. 1-2, 日中学院。(『倉石武四郎 中国へかける橋』p. 435に収録。毛主席の和尚打傘)

10033 「敬後語」と「論語」「中国語」175, 1974-8, p. 2, 「今月のことば」欄, 大修館書店, 昭和49年8月1日 → 16021

10034 「外」など『宇野哲人先生白寿祝賀記念東洋学論叢』p. 431-434, 宇野哲人先生白寿祝賀記念会(東方学会内), 昭和49年10月1日

- 08013 ○『支那語法入門』弘文堂書房、昭和14年(1939)5月15日、初版、108p.
 08014 ○『支那語発音入門』(油印)、印刷所恒星社、昭和15年(1940)4月序、62p.
 08015 ○『支那語発音入門』弘文堂書房、昭和17年(1942)3月25日、初版、74p、詞彙、16p.
 08016 『倉石中等支那語教科書』巻一〔ゲラ刷、校正済〕〔東京、弘文堂書房〕〔 〕32p.〔 〕内は、倉石蔵書原カードの記載による。
 08017 『倉石中等支那語教科書』巻一〔ゲラ刷、校正済〕のつづき、p.33~48、〔東京、弘文堂書房〕〔 〕
 08018 ○『倉石中等支那語』巻一 弘文堂書房、昭和14年(1939)3月1日、初版、120p.
 08019 『倉石中等支那語』巻一 弘文堂書房、昭和15年(1940)3月、第3版、(昭和14年(1939)7月、初版)
 08020 『倉石中等支那語』巻一 弘文堂書房、昭和16年(1941)3月、第5版
 08021 『倉石中等支那語』巻一 弘文堂書房、昭和16年(1941)10月、第6版
 08022 『倉石中等支那語』巻一 弘文堂書房、昭和17年(1942)4月、第7版
 08023 『倉石中国語教本』巻一 弘文堂書房、昭和23年(1948)6月、第8版(昭和14年(1939)6月初版)
 08024 『倉石中国語教本』巻一 弘文堂書房、昭和29年(1954)5月、修正8版(昭和14年(1939)7月初版)
 08025 『倉石中等支那語』巻二 弘文堂書房、昭和16年(1941)1月再版、120p、10p.(昭和15年5月1日初版)
 08026 ○『倉石中国語教本』巻二 弘文堂書房、昭和28年(1953)5月4版、120p、

- 巻一 弘文堂書房、昭和33年(1958)6月20日初版、120p.横排。表紙「倉石中等支那語巻一」初版と同配色なるも、逆に上赤下青に改め、カットこま狗をらくだにさしかえ。注音符号を拼音方案のローマ字に組み替える。
 08038 繙訳須知 巻一 (油印) 発行所、年月日なし。17p.
 08039 繙訳須知 巻二 (油印) 昭和12年訂、17p.
 08040 繙訳須知 巻三 (油印) 昭和12年訂、17p.
 08041 ○「南帰」(謝冰心) 生活社、昭和18年(1943)12月初版(1000部)、74p.奥付、はしがきに編者の名なし。他シリーズと同じく倉石武四郎編。
 08042 「狂人日記」他二編 [生活社] [昭和18年12月]?48p.狂人日記、孔乙己、故郷を収め、原本末尾に(1921年1月)とある。
 08043 ○「三国演義」 光風館、昭和19年(1944)3月18日初版(1,000部)、104p.
 08044 ○「古代英雄の石像」(葉紹鈞) 倉石武四郎編、生活社、昭和19年(1944)8月10日初版(1,000部)、63p.葉紹鈞著「古代英雄の石像」ほか、「書之夜話」「皇帝の新衣」「含羞草」を収め、はしがきあり。
 08045 ○「読和写」(沐紹良) 倉石武四郎編、生活社、昭和19年(1944)8月10日初版(1,000部)、89p.沐紹良著、「読和写」、前半の12編のみ。
 08046 「文章例話」(葉聖陶) 倉石武四郎編、生活社、昭和19年(1944)8月10日初版(1,000部)、83p.葉聖陶著「文章例話」原24編中の11編を収める。
 08047 「慘霧」(許傑) (油印)〔 〕初版、印刷所 ミチヤ商店印刷部、80p.

09 「支那語教育」

- 09001 支那語教育の新体制「改造」昭和15年10月号、A5、p.49~57
 09002 『支那語教育の理論と実際』 岩波書店、昭和16年(1941)3月22日初版、260p.
 09003 (倉石武四郎著『支那語教育の理論と実際』 土岐善麿、「図書」第6年69号、10月号、昭和16年10月1日、p.39~41)
 09004 「支那語教育の理論と実際」に対する書評を讀みて「華語集編」p.96~99、東京、蜚雪書院、昭和17年(1942)9月
 09005 支那語教育について「中国文学」中国文学研究会編、第71号、p.12~19、東京、生活社、昭和16年(1941)4月1日
 09006 中国語教育の問題「華文大阪毎日」第4年64号、p.6~7、大阪毎日新聞社、昭和16年(1941)6月15日、「關於在日本的中国語教育問題」欄
 09007 支那學ト国字問題「カナノヒカリ」第240号、p.12~15、カナモジカイ、昭和16年(1941)8月1日(同年6月29日)

- 第五冊 江蘇 (淮安・揚州・徐州)
第六冊 浙江 (杭州・嘉興)
第七冊 浙江 (湖州・寧波・紹興・台州・金華・衢州・嚴州・温州・処州)
第八冊 安徽, 江西
第九冊 湖北, 湖南, 四川
第十冊 福建, 廣東, 廣西, 雲南, 貴州
第十一冊 雜

06002 雪履尋碑録の跋に代えて「支那学」第7巻第3号(「内藤湖南先生追悼録」) p. 61(507)~65(511), 支那学社, 昭和9年7月31日。盛伯義「雪履尋碑録」を北京, 楊鐘羲(雪橋)より借覧し録副して内藤湖南に奉送すること。

06003 蔵書家の分類「読書春秋」第2巻第5号, p. 2~3, 東京, 春秋会, 1951年5月

06004 ラテン化新文字文献の解説・目録「中国研究」14号, 現代中国学会編, 中国研究所, 1951年6月。さねとう・けいしゅうと共に。

06005 普隣中国文庫について「小黒板」(倉石中国語講習会自治会誌) 第15号, p. 1~3, 1959年9月

06006 日中学院図書善本展観目録(油印) 6p, 於日中学院図書室, 1964年9月29日

06007 日中学院図書蔵書目録 1964年10月~1966年 月作製(カード)

06008 十五年ぶりの復興「随筆サンケイ」第11巻第12号, 昭和39年12月, 東京サンケイ新聞出版局, グラビア

06009 老舎先生著作等展観目録(油印) 7p, 於日中学院図書室, 1965年4月23~24日 →15009

06010 仁井田陞先生著作展観目録(油印) 3p, 於倉石中国語講習会, 1966年10

月26日

06011 「紅樓夢関係書目」(油印) 9p, 附表 1p, 倉石中国語講習会十五周年研究科紅樓夢班記念文集, 1966年6月 →18037
06012 「插图本展観目録」(油印) 6p
06013 東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録の刊行にちなみて「センター通信」No. 8, 1973-2. (東京大学東洋文化研究所・東洋学文献センター報) p. 1, 1971年2月20日, (「東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録」内容見本パンフにも転載)

06014 『目録学』→支那学(中国研究) 07014

07 「支那学(中国研究)」

07001 支那学を研究する人のために「改造」第23巻第17号, p. 244~247, 「文化指標」欄, 東京, 改造社, 昭和16年9月1日

07002 支那学者のしごと「東方学報 東京」第13巻之三, 昭和17年11月, 「兼報」学院内学事消息・談話会, 東方文化学院, 昭和18年2月15日(昭和17年7月20日講演要旨) 尚書正義・毛詩正義校定事業のこと, 共同研究のこと。

07003 支那学の現状「ひのもと」5月号, 第6巻第5号, p. 20~26(昭和18年3月4日, 京都放送局より放送) 東京ひのもと社, 昭和18年5月

07004 支那学教育論「文学界」第10巻第8号, 特集 日華文化提携, p. 45~49, 東京, 文芸春秋社, 昭和18年(1943) 8月1日

07005 漢学師承記のことも「支那語文化」第1号, 昭和18年11月号, 大阪宝文

館, 昭和18年10月26日(後半は, 近藤光男)

07006 終戦後の中国関係雑誌目録「中国語学」7, (油印) p. 4, 無署名, 中国語学研究会, 昭和22年9月1日

07007 海のそと(紹介)「中国語学」8, (油印) 無署名, p. 4, 中国語学研究会, 昭和22年10月1日

07008 中国学界「中国語学」20, (油印) p. 4, 中国語学研究会, 昭和23年10月1日
07009 中国の変革期における社会経済文化の相関関係の研究「代表者」「総合研究報告集録昭和27年度人文篇」1953年11月, p. 187~195「同昭和28年度人文篇」1954年10月, p. 4~15「同昭和28年度社会科学篇」1954年12月, p. 1~2

07010 『変革期中国の研究』(編) 岩波書店, 昭和33年(1958) 9月20日第3刷, (昭和30年(1955) 4月10日第1刷) 307p, 年表(p. 309~317), 索引11p.

07011 中国研究の盲点と倒錯 日中文化の異質性と同質性「東京大学学生新聞」156号, 昭和28年5月28日, 2p. 特集「新中国から何を学ぶか」

07012 中国研究の問題点「教育評論」第76, 7号, p. 35~38, 教育友の会, 昭和28年(1953) 9月10日

07013 中国研究の回顧と展望(座談会記録平野義太郎らと)「愛知大国際問題研究所研究資料」3, p. 1~33, 昭和32年9月

07014 『目録学』東京大学東洋文化研究所附属東洋学文献センター「東洋学文献センター叢刊」20, A 5 153p, 索引30p, 1973年3月 →05019, 06014

08 「支那語教科書(戦前)」

○印は六角恒広編「中国語関係書目(1867~1945)」早稲田大学語学教育研究所に所録。

08001 ○『支那語発音篇』弘文堂書房, 昭和14年(1939) 4月, 改訂5版, 80p. (昭和13年5月9日初版)

08002 支那語発音篇(改訂版) 吹込レコードロビンヤ・レコード(傳芸子氏吹込), 昭和13年

08003 『支那語発音篇』弘文堂書房, 昭和14年(1939) 第6版, 80p.

08004 ○『支那語語法篇』弘文堂書房, 昭和13年(1938) 9月25日, 初版, 112p. 倉石先生手訂。

08005 『支那語語法篇』弘文堂書房, 昭和15年(1940) 7月, 第9版, 112p.

08006 ○『支那語読本』巻一 弘文堂書房, 昭和13年(1938) 12月, 再版, 130p. (昭和13年9月18日初版)

08007 『支那語読本』巻一 弘文堂書房, 昭和17年(1942) 3月, 第8版, 130p.

08008 ○『支那語読本』巻二 弘文堂書房, 昭和14年(1939) 11月13日, 初版, 190p. 倉石先生手訂。

08009 ○『支那語綴訳篇』巻一 弘文堂書房, 昭和13年(1938) 11月19日, 初版, 78p. 倉石先生手訂。

08010 『支那語綴訳篇』巻一 解説 弘文堂書房(油印), 昭和16年(1941) 12月10日, 38p. 出版社名なし, 編輯兼発行者八坂浅次郎(弘文堂書房)とある。

08011 ○『支那語綴訳篇』巻二 弘文堂書房, 昭和15年(1940) 8月15日, 初版, 100p.

08012 『支那語綴訳篇』巻二 解説 400字詰原稿用紙にペン書(他筆)58枚

- 月28日。誤字訂正あり。(「斯文」20編12号, 昭和13年12月にも同内容)
- 03007 ふたたび去声について『東方学会創立十五周年記念, 東方学論集』p. 98~104, 東方学会, 昭和37年7月1日
- 03008 三たび去声について 特別講演レジュメ「中国語学」184, p. 17, 中国語学研究会(東大中国文学研究室内), 昭和43年9月15日
- 03009 三たび去声について「中国語学」187, p. 1~6, 中国語学研究会(東京大学中国文学研究室内) 昭和44年1月15日
- 03010 四声点に就いて「斯文」21編1号, 昭和44年1月, 講演
- 03011 段玉裁尺牘集について「書苑」第3巻第10号(特輯 集王書聖教序号) p. 24, 三省堂, 昭和44年10月1日。「書苑」第3巻第8号(段玉裁集) 瓶倉(藤原楚水)「段玉裁尺牘教文」に対する訂誤の投書。
- 03012 六書音均表について「支那学 小島本二博士還暦記念号」——第10巻特別号, p. 147(1)~192(46), 支那学社, 昭和47年4月30日

04 [小学史話]

- 04001 清朝小学史話(「漢学会雑誌」第10巻第3号(創刊10周年記念特輯——清朝文化の研究(二)), p. 1(217)~15(231)漢学会(東京帝国大学文学部支那哲文学研究室), 昭和47年12月25日
- 04002 黄承吉とその学問「支那語文化」昭和48年11月号, 第1号, 大阪宝文館, 昭和48年10月26日(大阪外語大陸語学研究所編)

- 04003 『小航路線』和『玉初路線』(中文)「大陸画報」第5巻第10号(通巻48号)p. 17, 朝日新聞東京本社, 月刊, 毎月15日発行, 昭和49年10月15日。王照(号小航), 勞乃宣(号玉初)
- 04004 王照と勞乃宣「漢学会雑誌」第12巻第1・2合併号, p. 7~27, 漢学会, 昭和49年12月1日
- 04005 錢玄同と黎錦熙『市河博士還暦祝賀論文集』第一輯, 市河博士還暦記念会実行委員会(代表斎藤勇), p. 136~148, 研究社, 昭和49年11月20日。市河三喜[1885年2月18日~1970年3月17日]
- 04006 李詳『中華六十名家言行録』青木正児博士還暦記念(麗沢叢書之七) p. 286~290, 麗沢社編, 弘文堂書房, 昭和49年2月10日
- 04007 戴震と錢大昕——清朝小学史話続——「東京支那学報」第1号, p. 55~63, 東京支那学会, 昭和30年6月15日
- 04008 呉稚暉『(字)野哲人博士米寿記念論集』中国の思想家』下巻, 東京大学中国哲学会研究室編, p. 751~762, 勁草書房, 1963年7月20日

05 [講義ノ一ト類]

- 05001 清朝許学 坵説文段注解題 昭和6年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05002 清朝音学 上篇 昭和7年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05003 清朝音学 下篇 昭和8年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05004 清朝音学 統篇 均小学階梯 昭和9・10年, 京都帝国大学文学部講義原稿,

- 自筆墨書
- 05005 昭和十年度特殊講義 清朝音学資料 京都帝国大学文学部(油印) 錢大昕「与段若膺書」, 錢大昕「音韻答問」, 戴震「軼語二十章序」, 段玉裁「荅玉裁「荅書」, 段玉裁「江氏音学序」, 段玉裁「荅江晉三論韵」
- 05006 小学歴史 昭和11年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05007 清朝音学 完 昭和12年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05008 小学通論 昭和13~15年, 京都帝国大学文学部; 昭和14年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05009 支那語法の研究 昭和14年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05010 支那学概論 昭和15年, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05011 支那語法通論 昭和15年, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05012 支那学概論 昭和16年, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05013 支那語学概論 支那音韵学通論附, 昭和16年, 東京帝国大学文学部; 昭和16~19年, 京都帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05014 白話と文言 昭和17年, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05015 支那学の発達 昭和18年, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05016 支那文芸学 昭和19年, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05017 支那語学史 昭和20年度, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05018 本邦における支那学の発達 昭和21年度, 東京帝国大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05019 中国目錄学 昭和23年, 京都大学
- 文学部講義原稿, 自筆墨書 のち『目錄学』(東大東洋学文獻センター叢刊) 1973年3月刊として →06014, 07014
- 05020 中国文学史 上冊 昭和24年度, 東京大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05021 中国文学史 下冊 昭和24年度, 東京大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05022 中国語学概論 序説の一 中国語学の立ち場, 昭和22年, 講義原稿, 自筆墨書
- 05023 中国語学概論 序説の一 意味論・文字論 昭和25年度, 東京大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05024 中国文学史概説(上) 昭和26年度, 東京大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05025 中国文学史概説(下) 昭和26年度, 東京大学文学部講義原稿, 自筆墨書
- 05026 中国文学史概説 第五章 宋の民間文芸; 第二章 五四時代~第四章 人民文学, 講義原稿, 自筆墨書
- 05027 中国新文学の問題 講義原稿, 自筆墨書
- 05028 中国文化の問題 講義原稿, 自筆墨書
- 05029 中国新文学の展開 (原稿紙)400字×57枚, 自筆

06 [書目・図書]

- 06001 「清人別集書目」(仮題) 全11冊 自筆稿本(紙本墨書)
- 第一冊 宗室, 八旗, 直隸
- 第二冊 山東, 山西, 河南, 陝西, 甘肅
- 第三冊 江蘇(江寧・蘇州)
- 第四冊 江蘇(松江・常州・鎮江)

- x, 倉石先生のこと 長谷川良一 p. xi~
 xiii, いま一度お愿ひ申して 李秀清 p.
 xiv~xvi, ある日の倉石先生 田中文蔵
 p. xvii~xix, 再辞 江尻健二 p. 188~
 192, 追悼のことば 鈴木繁 p. 192~193,
 先生——私を歩み出させた人 林敏 p.
 193~196, 倉石先生の思い出 中村俊也
 p. 196~197, 先生のこと (仮題) 井上タ
 ルホ p. 197, 日中学院・倉石武四郎先
 生遺稿集編集委員会 (編), 垂紀書房,
 1977年4月10日
 00021 民間中国語教育の四半世紀, なまな
 ましい苦難の記録『倉石武四郎 中国へ
 かける橋』『読売新聞』1977年5月2日
 00022 “民間”学習・教育運動のよびかけ
 るもの 斎藤秋男『中国研究月報』1977
 年5月11日, 351号, 『中国へかける橋』
 書評
 00023 新刊抄『中国へかける橋』『朝日新
 聞』1977年5月23日
 00024 コトバのかげ橋築いた歴史綴る『中
 国へかける橋』金丸邦三『公明新聞』
 1977年5月30日
 00025 新刊紹介『中国へかける橋』『社会
 新報』1977年6月3日
 00026 文化展望『中国へかける橋』『日本
 と中国』1977年6月5日, 復刊488号, 付
 録東京版15号, 東京都日中友好協会
 00027 師弟苦難25年の記念碑——倉石武
 四郎『中国へかける橋』——さねとうけ
 いしゅう, 『日中学院報』第38号, p. 1~
 3, 日中学院, 1977年6月21日
 00028 私のこの一冊 日中学院編『倉石武
 四郎 中国へかける橋』(垂紀書房) 牛
 島徳次, 『中国語』1977年11月号, p. 3,
 大修館書店
 00029 倉石博士のこと「教学」7号, この
 人に聴く(7) 黎波, p. 36~41, 日中学院

出版局, 1979年4月

01 「留学前 (昭和3年まで)」

- 01001 恆星管窺 大正10年 (1921) 東京帝
 国文学部支那文学科卒業論文 (中文
 墨書, 2篇109葉, 図6葉), 塩谷温評あ
 り。
 01002 江浙巡礼録, 「斯文」3-4, p. 39~
 47, 大正10年 (1921) 8月
 01003 淮南子の歴史(上)「支那学」第3
 巻第5号, p. 16 (334) ~50 (368) 支那
 学社, 弘文堂書房, 大正12年 (1923) 12
 月1日。倉石蔵書には書き入れあり。
 01004 淮南子の歴史(下)「支那学」第3
 巻第6号, p. 23 (421) ~53 (451), 支那
 学社, 弘文堂書房, 大正12年8月1日。
 倉石蔵書には書き入れあり。
 01005 (青木正児: 楽律溯源「支那学」第
 3巻第8号, p. 17(581)~41(605), 支那
 学社, 弘文堂書房, 大正13年7月1日。
 倉石蔵書には書き入れあり。
 01006 目連救母行孝戯文に就て「支那学」
 第3巻第10号, p. 5 (731)~24(750), 支
 那学社, 弘文堂書房, 大正14年2月1日。
 倉石蔵書には書き入れあり。
 01007 「足利学校見聞記」跋 広瀬建「足
 利学校見聞記」大正十二年癸亥八月跋,
 東京, 松雲堂, 大正14乙丑歲初夏発行,
 上海中華書局 (仿宋巾箱本) 印行, 本文
 訂正あり。
 01008 杜樊川年譜「支那学」第3巻第11号,
 p. 66(880)~78(892), 大正14年8月30日
 01009 (鈴木虎雄: 騷賦の生成を論ず「支
 那学」第3巻第11号, p. 1(815)~48(862),
 大正14年8月30日。倉石蔵書には書き入れ

あり)

- 01010 「騷賦の生成を論ず」を読む「支那
 学」第3巻第12号, p. 1 (901)~28(928),
 大正14年12月30日。倉石蔵書には書き入れ
 あり。

- 01011 楽府の研究『内藤博士還暦祝賀支
 那学論叢』羽田亨編, p. 671 (1) ~699
 (29), 弘文堂書房, 大正15年5月25日
 01012 琴趣外篇に就て「支那学」第4巻
 第1号, p. 113~119, 大正15年7月30日
 01013 「日連変文」紹介の後に「支那学」
 第4巻第3号, 昭和2年10月, p. 130(4
 32)~138(440), 支那学社, 昭和2年10月
 5日

- 01014 小説家の正統論『狩野教授還暦記
 念支那学論叢』p. 369 (1) ~392 (24), 弘
 文堂書房, 昭和3年2月11日

02 「経学」

- 02001 『儀礼疏改正』五十巻 (紙本墨書)
 8行, 行20字, 東方文化学院京都研究所
 研究報告 (昭和12年1月), 東京大学東洋
 文化研究所「東洋学文献センター叢刊」
 31, 32(上・下), 昭和54年3月31日影刊。
 原本京都大学人文科学研究所蔵。
 02002 東洋文庫蔵中原本古文尚書卷第六
 跋「漢学会雑誌」第8巻第2号(皇紀二千
 六百年記念特輯其二) p. 122 (264) ~124
 (266), 漢学会 (東京帝国大学文学部支那
 哲学研究室), 昭和15年7月25日
 02003 『毛詩抄(詩経)(-)』清原宣賢講述(小
 川環樹, 高馬三良と校訂)「岩波文庫」岩
 波書店, 昭和15年3月26日, 425p
 02004 尚書正義の決定に就て——古書読
 攷法の一例として——「斯文」23編4号,

昭和16年4月1日, 講演

- 02005 『毛詩抄(詩経)(-)』清原宣賢講
 述(小川環樹と校訂)「岩波文庫」岩波書
 店, 昭和17年6月1日, 407p. (~「南有
 嘉魚之什」)

- 02006 賈公彦の儀礼疏 喪服篇(-)「漢学
 会雑誌」第10巻第1号, p. 77~86, 漢学
 会 (東京帝国大学文学部支那哲学文学研究
 室) 昭和17年5月10日。統稿若干篇蔵在
 倉石家。

03 「清朝小学」

- 03001 説文解字段注改正訂補「東方学報
 京都」第2冊, p. 139~155, 東方文化学
 院京都研究所, 昭和6年11月30日
 03002 説段注説文札記「中国語学」190,
 1969.6, p. 1~3, 中国語学研究会 (東大
 中国文学研究室内) 昭和44年5月15日
 03003 「段懋堂の音学」(影印原本) 青焼
 学位請求論文, 京都, 均社之会 (小川環
 樹) 1974年1月, 376p. (21×30cm 450字
 詰) 原本蔵在京都大学附属図書館。[昭和
 12年丁丑9月3日識語]
 03004 段懋堂の双声説『服部先生古稀祝
 賀記念論文集』p. 377(7)~388(12), 富
 山房, 昭和11年4月21日。訂正抽印本あ
 り。

- 03005 戴東原の声類表に就いて「東方学
 報京都」第7冊, p. 402, 東方文化学院
 京都研究所, 昭和11年12月20日。(昭和
 11年1月29日, 水曜談話会例会)
 03006 去声に就て「大阪漢学会研究報
 告」(第七回漢学大会: 昭和13年10月16
 日) 東大(文)漢学会・斯文会連合開催,
 「研究報告集録」p. 25~38, 昭和13年12

て、大いに進捗した。

本目録の作製作業もまた、この蔵書点検作業に併行してすすめられ、点検によって現出した未整理の書籍・雑誌・稿本類を整頓しつつ、行なわれたため、これまた博士によって作製されていた「著述類目録」カードを大にはばに増補する結果となった。

○ 本目録は、現本を点検して著録したのであって、既製の「目録」を転写したものではない。現物未見のものは、やむをえず「未見」と記入した。

○ 本目録は、中国語学会として、より完全なものとして会員に配布するため、博士の業績の各分野について、それぞれ詳悉しておられる会員数名に配送して、その補訂をお願いして成ったものである。

○ なお、会員はもちろん、ひろく本目録の不備にお気づきの方は、倉石武四郎博士著述目録編集委員（東京都文京区後楽1-5-3；善隣学生会館・日中学院内）あて、大小となくお知らせ下さるようお願いする。

中国語学会「倉石博士著述目録」編集委員
1979年9月21日

分号	分目	カード数	分号	分目	カード数
00000	経歴・著目（追悼文）	29	16000	論語ほか	22
01000	留学前（昭和3年まで）	14	17000	中国古典	5
02000	経学	6	18000	中国文学	136
03000	清朝小学	12	19000	中国語教科書	41
04000	小学史話	8	20000	中国語教育（講座）	65
05000	講義ノート類	29	21000	中国語教育・日中学院	76
06000	書目・図書	14	22000	テーブ	24
07000	支那学（中国研究）	14	23000	中国語教育（一般）	24
08000	支那語教科書（戦前）	49	24000	中国語教育のあゆみ	24
09000	支那語教育（同上）	9	25000	文字改革	60
10000	中国語学	34	26000	国字問題（漢字）	33
11000	方言	10	27000	漢文教育	7
12000	辞典	35	28000	国語政策	19
13000	ことばと思惟と社会	15	29000	雑感・随想	88
14000	讀冰心	26	30000	雑	52
15000	老舍	11		計	991

00〔経歴・著目（追悼文）〕

00001 倉石武四郎博士略歴（頼惟勤記）
倉石教授講義題目（東大文学部）「東京

支那学報」第4号、昭和33年6月、p.15
～20、p.21～23。東京支那学会。昭和33
年6月1日

00002 倉石武四郎博士略歴（頼惟勤記）

『（倉石博士還暦記念）中国の名著——その鑑賞と批評』、東京大学中国文学研究室編、p.417～421、勤草書房、1961年10月20日

00003 座談会「学問の思い出」——倉石武四郎博士を囲んで——倉石武四郎（小野忍、戸川芳郎、丸山昇、石田一郎）「東方学」40、p.154～173、東方学会、昭和45年9月25日

00004 倉石武四郎先生を悼む 藤堂明保「毎日新聞」1975年11月17日夕刊

00005 訃報 倉石武四郎名誉教授（文学部）「学内広報」No.307、p.3、1975年12月8日、無署名、東京大学広報委員会

00006 倉石先生を偲ぶ 李秀清「日中学院報」第49号、p.1～2、日中学院、1975年12月18日

「JIAOXUE」1（創刊号）p.1、日中学院出版局、1975年12月25日にも同文転載。

00007 47期生 山田和「日中学院報」第49号、p.2～3、日中学院、1975年12月18日

00008 先生——私を歩み出させた人 林敏「日中学院報」第49号、p.3～4、日中学院、1975年12月18日

00009 倉石武四郎先生の業績と中国文化研究 前野直彬東大教授、中国文化研究協会（会長片山哲）1月例会での講演、1976年（昭和51）1月24日、カセツトテープ120分。

00010 倉石武四郎先生のこと 武田泰淳『中央公論 歴史と人物』1976年2号（通号54）p.18～19、1976年2月

00011 倉石先生とのおつきあいについて 玉木英彦（油印）2p、昭和51年（1976）2月8日（日）東京・お茶の水Y.W.C.A.における「倉石武四郎先生を偲ぶ会」にて配布。

00012 〔座談会〕 倉石先生と中国語「中国語」No.194、1976—3（特集 倉石武四郎先生と中国語）p.3～8、大修館書店、昭和51年3月1日、出席者：内田道夫、頼惟勤、松本昭、戸川芳郎。（吉川幸次郎「倉石武四郎氏逸事」—「中国語」編集者への書簡—、『文明の三極』筑摩書房、昭和53年4月所収）

00013 辞書編纂のころ 黎波「中国語」No.194、1976—3（特集 倉石武四郎先生と中国語）p.9、大修館書店、昭和51年3月1日

00014 『ローマ字中国語初級』と私 長谷川良一「中国語」No.194、1976—3（特集 倉石武四郎先生と中国語）p.10～11、大修館書店、昭和51年3月1日

00015 倉石武四郎先生を偲んで 鈴木直治「金沢大学教養部報」第10号、〈停年退官に際して〉欄、タブロイド判、p.6、金沢大学教養部、昭和51年3月25日

00016 倉石武四郎博士哀辞——昭和50年11月22日、青山斎場にて——吉川幸次郎「ちくま」84、筑摩書房、1976年4月（吉川幸次郎『文明の三極』筑摩書房、昭和53年4月所収）

00017 倉石武四郎先生追悼 牛島徳次「言語」1976年1月号、p.79、大修館書店、1976年1月1日

00018 倉石武四郎先生と私 王育徳「台湾青年」185期、p.28～34、台湾独立連盟、1976年5月

00019 故倉石臥雲先生を哭す 橋本萬太郎「アジアアフリカ言語文化研究所通信」第27号、p.1、東京外国語大アジアアフリカ言語文化研究所、1976年7月25日

00020 『倉石武四郎 中国へかける橋』教師としての倉石先生 藤堂明保 p.vii～viii、倉石先生の思い出 牛島徳次 p.ix～

倉石武四郎博士論著目録

- * 本「倉石武四郎博士論著目録」は、『中国語学』226号(1979年11月)に収録された「倉石武四郎博士著述目録」を補訂して成ったものである。
したがって、以下に、「倉石武四郎博士著述目録の作成について」をそのまま掲載した。また、今回の補訂にもれた計4篇を末尾に収録した。

倉石武四郎博士著述目録の作成について

- 本「倉石武四郎博士著述目録」は、故倉石武四郎博士〔明治30・1897年9月21日一昭和50・1975年11月14日〕の、論文・著作に関する作品を、大学における講義原稿や日中学院における講演録音テープなどを含め、網羅的に排列したものである。
- 本目録は、紀事本末の体例に準じて分類してある。博士の研究と教育の広範な分野にわたる業績の全過程が、博士の足跡の推移に沿って通観できるよう考慮し、できるかぎり細分化するにつとめて、30分目を得た。
- この30分目は、類別すると、
- I 支那学、とくに清朝小学
 - II 中国語学 (音韻, 方言, 語法)
 - III 中国語教育 (教科書, 講座; 辞書)
倉石中国語講習会・日中学院 (教科, 経営)
 - IV 中国文学 (謝冰心, 老舍, 論語; 翻訳をふくむ)
 - V 文字言語問題
- の5大別が、可能である。
- 本目録は、中国語学研究会における昭和51年度全国大会の決議にもとづいて、作製された。編集工作は、鐘ヶ江信光会長より委嘱された頼惟勤・戸川芳郎・中野実の三氏が事に当たった。日中学院事務局の江尻健二氏、大修館書店「中国語」編集の中原尚道氏の協力をあおぎ、東京大学から松岡栄志・刈間文俊の両大学院生の援助をえた。
- 編集工作は、昭和52年6月より9月にかけて、主として、博士の著作を保存する日中学院図書室 (東京都文京区後楽1丁目、善隣学生会館内) で行なわれた。
- 昭和51年秋から、東京大学東洋文化研究所によって準備され、昭和52年初頭から開始された、日中学院図書室の蔵書点検作業は、同年8月すえに、ほぼ完了した。その作業は、博士の配備しておかれた「日中学院図書室蔵書目録」カードを利用することによっ

倉石武四郎著作集 第二巻

漢字・日本語・中国語

定価 5,000円

1981年6月20日 第1刷発行

著者 倉石武四郎
発行所 くろしお出版

101 東京都千代田区神田小川町3-24

でんわ 03-291-3557

ふりかえ 東京9-31301

印刷 早稲田大学印刷所 製本 大洋社